

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部情報システム創成学科	教授	成田 清正	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
平成6年度文部省科研費補助金一般研究C・講演会&研究セミナー&教育実践「ランダムウォークの逆正弦法則」	1994年 9月29日 ～現在に至る	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の権威である清水昭信教授（横浜国立大・工学部）」を講師に招いて講演会（於・神奈川大学18-11室）を催し、ブラウン運動の離散モデルとして知られる酸歩・乱歩運動の解析とシミュレーションの手法を伝授していただいた。その結果を乱数処理に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1994/9）。	
平成6年度文部省科研費補助金一般研究C・講演会&研究セミナー&教育実践「リスプ言語の応用」	1994年 9月29日 ～現在に至る	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の中堅である佐藤定夫助教授（東京電機大・理工学部）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学18-11室）を催し、リスプ言語を用いたペトリネットの解析と学習モデルの例を伝授していただいた。その結果を情報処理に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1994/9）。	
講演会&研究セミナー&教育実践「学習モデルの構築」	1995年 6月 8日 ～現在に至る	神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、統計数学の中堅である伊藤一郎助教授（東京学芸大・教育学部）、大口剛助教授（東邦大・理）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学18号館-11室）を催し、教育情報の学習モデルの構築法と計算機による偏微分方程式の数値解析を伝授していただいた。その結果を経営工学演習に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1995/6）。	
学術振興会補助金・講演会&研究セミナー&教育実践「Operations Research」	1995年 7月14日 ～現在に至る	学術振興会の招聘〔引受人・山田敬吾教授（神奈川大）〕によって来日したオペレーションズ・リサーチ学の世界的名数学者 Mandelbaum（イスラエル工科大）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学3号館342室）を催し、清水昭信教授（横浜国立大・工）を討論者に、神奈川大学大学院院生と4年生たちにも参加していただいた。その結果、最適制御の確率論的方法を伝授していただき、修士論文と卒業研究の完成に大きな効果を与えることができた（1995/7）。	

<p>講演会&研究セミナー&教育実践「応用ソフトウェア MatlabによるCG」</p>	<p>1995年11月 9日 ～現在に至る</p>	<p>神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、日本におけるMatlabディストリビューターである小国力教授（神奈川大学・理）（平成13年度情報センター所長）を講師に招いて講演会を催し（於・神奈川大学4号館）、カオスとフラクタルのコンピュータグラフィックスに関する手法を伝授していただいた。その結果、Matlab・Maple・Mathematicaを並列的に利用した処理技術で授業と卒業研究に効果を与えることができた（1995/11）。</p>
<p>講演会&研究セミナー&教育実践「確率論とその応用」</p>	<p>1996年11月21日 ～現在に至る</p>	<p>神奈川大学数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、確率論の中堅である高野優教授（静岡大・工）、道工勇助教授（埼玉大・教育）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学18号館-11室）を催し、確率論のシミュレーションと制御論を伝授していただいた。その結果を経営工学演習に応用して、授業と卒業研究に効果を与えることができた（1996/11）。</p>
<p>平成10年度文部省科研費補助金基盤研究C・講演会&研究セミナー&教育実践「待ち行列の確率解析」</p>	<p>1998年 9月16日 ～現在に至る</p>	<p>神奈川大学大学院 経営工学専攻の院生たちを対象に、ORと待ち行列の権威である日本電気C&Cメディア研究所の紀一誠氏（主席研究員・現神奈川大学理学部教授）と小林和朝氏（主管研究員）を講師に招いて講演会（於・神奈川大学3号館）を催し、待ち行列理論の計算機ネットワークに対する応用技術を伝授していただいた。その結果をネットワーク問題の解決に生かして、大学院講義と修士論文作成に効果を与えることができた（1998/9）。</p>
<p>平成12年度文部省科研費補助金基盤研究C・講演会&研究セミナー&教育実践「インターネットにおけるQoS」</p>	<p>2001年 3月15日 ～現在に至る</p>	<p>神奈川大学経営工学専攻と数理情報システム工学研究室の学生たちを対象に、NEC研究所の小林和朝氏（主管研究員）と本学情報科学科の紀一誠教授を講師に招いて講演会（於・神奈川大学23号館4階）を催し、インターネットにおけるQuality of Serviceに関する複雑系の理論展開を学んだ。その結果をネットワークの構築に生かして、修士論文と卒業論文の作成に効果をあげることができた（2001/3）。</p>
<p>学生による授業評価アンケート結果の活用</p>	<p>2008年 4月 ～現在に至る</p>	<p>平成20年度の授業評価アンケートの評価を受けて、数理統計学（前期、後期）および確率過程論の内容を分かりやすく伝えるために、身の回りの事例モデルを中心に解説し、板書も大きくゆっくりと進め、学生の興味を増すように努めた。また、授業時間中には、当日の授業内容に関する知識の確認のために小演習を行い、学生の理解をさらに促した。</p>
<p>平成22年度科研費基盤研究（C）による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「ウェーブレット理論」</p>	<p>2010年 5月 ～現在に至る</p>	<p>首都大学東京 大学院理工学研究科 岡田正巳教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「フラクタルマーケットの解析に対するウェーブレット理論の応用について」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「ウェーブレット理論の数学的基礎と情報技術への応用」を開催した。2010年5月18日（火）、4～5時限、23-523、305講堂。</p>

平成22年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「数理ファイナンス」	2010年6月4日 ～現在に至る	一橋大学 大学院経済学研究科 石村直之教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「金融時系列のフラクタル解析と投資戦略の最適化」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「数理ファイナンスにおける解析の基礎技法と非線形現象の不思議」を開催した。2010年6月4日(火)、4～5時限、23-523、305講堂。
平成22年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「ウェーブレットの応用」	2010年9月29日 ～現在に至る	早稲田大学 大学院理工学研究科 鈴木 武教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「統計数理によるモデル化の試み」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「ウェーブレット解析と確率過程への誘い」を開催した。2010年9月29日(水)、4～5時限、23-523、205講堂。
平成22年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「金融工学」	2010年10月15日 ～現在に至る	首都大学東京 大学院社会学研究科 木島正明教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「金融時系列解析と投資戦略の最適化」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「数理ファイナンスにおけるリスクの計量化」を開催した。2010年10月15日(金)、4～5時限、23-523、307講堂。
平成22年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「東アジアの情報教育」	2011年2月24日 ～現在に至る	東京学芸大学 教育学部 伊藤一郎准教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「金融、通信、相互作用における確率モデルの当てはめと実際」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「金融と通信に係る東アジアの情報教育」を開催した。2011年2月24日(木)、4～5時限、23-522、305講堂。
平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「ブラウン運動理論」	2011年5月20日 ～現在に至る	埼玉大学 大学院教育学研究科 道工 勇教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「社会と自然の偶然現象の解析に用いられるブラウン運動理論について」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「ブラウン運動理論と数理モデル」を開催した。2011年5月20日(金)、4～5時限、23-519、305講堂。
平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「確率微分方程式」	2011年6月17日 ～現在に至る	東京都市大学 大学院工学研究科 金川 秀也教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「確率微分方程式のシミュレーションについて」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「ランダムフラクタルの理論を用いた金融工学」を開催した。2011年6月17日(金)、4～5時限、23-519、303講堂。
平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「数論アルゴリズム」	2011年9月30日 ～現在に至る	千葉大学 大学院理学研究科 野澤 宗平教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「画像における電子透かし技術と数論アルゴリズム」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「金融と通信を支えるガロア理論への誘い」を開催した。2011年9月30日(金)、4～5時限、23-519、304講堂。

平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「モンテカルロ法」	2011年10月11日 ～現在に至る	中央大学 大学院理工学工学研究科 松井 知己教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「組合せアルゴリズムの理論と応用」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「マルコフ連鎖モンテカルロ法による近似解法」を開催した。2011年10月11日(火曜、4～5時限、23-526、210講堂)。
平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「Web社会の代数学」	2011年11月18日 ～現在に至る	慶應義塾大学 経済学部 光 道隆教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「Web社会の情報セキュリティアルゴリズム」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「素数で読み解く暗号の世界」を開催した。2011年11月18日(金)、4～5時限、23-519、304講堂。
平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：産学連携プログラム「ロジカルシンキング」のトリアル授業	2012年 1月23日 ～現在に至る	情報処理推進機構による産学連携「人材育成のためのパーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成コンテンツ」を富士通ラーニングメディアと開発したことに伴い(成田清正が監修担当)、成田研究室と進藤研究室所属の学部3、4年生と大学院生を対象に、総合演習をグループ討議を中心に行った。富士通ラーニングメディアの管理職数名がアドバイザー、コメンテータとして参加した。2012年12月23日(月)、3時限～4時限(23-309講堂)。
平成24年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「地震火山予知学」	2012年 5月18日 ～現在に至る	フランスの防災顧問で元気象研究所所長の 伊藤 秀美博士を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「地震の数理モデルと実際モデルの検証について」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「日本の地震活動と地震のリスク評価について」を開催した。2012年5月18日(金)、4～5時限、23-518、305講堂。
平成24年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「生命保険の数理」	2012年 6月 1日 ～現在に至る	日本大学 文理学部 数学科 黒田 耕嗣教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「経済における確率論の役割-株式市場における統計解析とLong Memory」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「生命保険数理入門」を開催した。2012年6月1日(金)、4～5時限、23-518、305講堂。
独立行政法人 情報処理推進機構「情報セキュリティ実践教育コンテンツ」	2012年 7月 ～2013年 2月	成田清正(監修)、富士通ラーニングメディア(開発)：
平成24年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「ビッグデータの解析」	2012年10月 5日 ～現在に至る	アクセンチュア株式会社 ITソリューション部 システムエンジニア 梅本 英生氏を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「フラクタル構造のマーケットにおけるデータの処理と圧縮に関する技法」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「フラクタルマーケットにおける『ビッグデータ』の解析」を開催した。2012年10月5日(金)、4～5時限、23-518、305講堂。

<p>平成24年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「ORの最適化問題」</p>	<p>2012年11月6日 ～現在に至る</p>	<p>慶應義塾大学 大学院理工学研究科 田村 明久教授を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「離散最適化の理論と応用」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「マッチング市場モデルの紹介」を開催した。2012年11月6日(火)、4～5時限、23-519、303講堂。</p>
<p>平成23年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：産学連携プログラム「情報セキュリティ」のトライアル授業</p>	<p>2012年12月18日 ～現在に至る</p>	<p>情報処理推進機構による産学連携「情報セキュリティ実践的教育コンテンツ」を富士通ラーニングメディアと開発したことに伴い(成田清正が監修担当)、成田研究室と進藤研究室所属の学部3、4年生と大学院生を対象に、総合演習をグループ討議を中心に行った。富士通ラーニングメディアの管理職数名がアドバイザー、コメンテータとして参加した。2012年12月18日(火)、4時限～5時限(23-307、306講堂)。</p>
<p>平成24年度科研費基盤研究(C)による研究の教育還元：人材育成プログラムに基づく研究セミナー&講演会「逆問題の数理」</p>	<p>2013年2月21日 ～現在に至る</p>	<p>金沢大学 名誉教授 土谷 正明教授(現：金沢大学 理工学域 非常勤講師)を招聘して、大学院生を対象に研究セミナー「逆問題の予測方式に関する最新の数学定理」を行い、学部3～4年生を対象に講演会「工学に対する逆問題理論の応用」を開催した。2013年2月21日(木)、4～5時限、23-527、304講堂。</p> <p>2013年2月21日(木) 8時50分～16時10分 会場：23号館527(大学院演習室) セミナータイトル：『』</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p>		
<p>独立行政法人 情報処理推進機構 「産学連携IT人材育成のためのパーソナルスキル(ロジカルシンキング)養成教育コンテンツ」</p>	<p>2011年7月 ～2012年2月</p>	<p>成田清正(監修)、富士通ラーニングメディア(開発)：産業界が高等教育機関に求めるパーソナルスキル、特にIT技術者にとって必要な論理的思考力、およびそれに基づいたコミュニケーション能力を身に付けるために、15講義を演習(個人、チーム)を通して学ぶことができるよう、実践的な教材として作成された。</p>

独立行政法人 情報処理推進機構 「情報セキュリティ実践的教育コンテンツ」	2012年 7月 ～2013年 2月	成田清正（監修），富士通ラーニングメディア（開発）：安心・安全なネットワーク社会における情報セキュリティの必要性と重要性を理解し、情報資産における気密性・完全性・可用性の確保と維持を理解し、かつ情報セキュリティのリスクに対する主な対策方法を理解するために、15講義を演習（個人、チーム）を通して学ぶことができるよう、実践的な教材として作成された。
日本応用数理学会「応用数理ハンドブック」	2013年 9月 ～現在に至る	薩摩順吉、大石進一、杉原正顕（編集）。 成田清正（章編集主査「数理ファイナンス分野」および原稿執筆「ブラウン運動理論」）， 朝倉書店，B5判 704頁（刊行 2013-09）：日本応用数理学会設立20周年を記念して近年の応用数理の発展分野を取りまとめ、研究と教育の双方に役立つよう、体系的な事典を出版した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 4月 ～現在に至る	数理統計学（前期）について：授業のねらいや到達目標、内容の進め方とシラバスとの関係、授業に取り組む熱意等に関する項目では、過半数の学生から「そう思う」「強くそう思う」との評価を得た。 コースワーク（1年次生、前期）について：板書・視聴覚教材の活用、授業に取り組む熱意等に関する項目では、過半数の学生から「そう思う」「強くそう思う」との評価を得た。
4 実務の経験の有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		
横浜市ファジィセミナー研究会・招待出席	1990年 7月17日 ～現在に至る	応用ファジィ工学の成功例として知られる仙台市営地下鉄車両に関する研究セミナーに参加し、東京工業大学の菅野道夫教授、横浜市、日立製作所等の研究者と討論をした。その先端結果を工学部の数学教育に効果的に反映させることができた（1990/7）。
研究集会「確率解析（伊藤清 京大名誉教授の業績）」 発起人・招待出席	1995年 9月 9日 ～現在に至る	確率微分方程式論を確立して学士院恩賜賞を含む数々の名誉を得た世界的な数学者・伊藤清（京大名誉教授）を囲む研究会（於・京大会館）の企画に携わり、数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を受賞した広中平祐教授（京大/ハーバード大）のもとに、研究打合わせ等を行った。得られた知見と収集した資料に基づいて実行された学内授業と研究指導は、神奈川大学の学生たちに大きな感銘と効果を与えた。

神奈川大学フォーラム・講師「新課程〈数学〉をめぐる2つの話題～入試前線・計算機模擬実験～」	1996年 9月20日 ～現在に至る	神奈川大学広報課の要請に基づいて、大学を代表して、目前の新教育課程による初めての入試に関する対応策を説明し、大学における数学教育の現状と将来への指針を与えた。さらに、新教育課程に含まれている計算機プログラムを用いた経済モデルの解析例を紹介した（於・広島市広島ガーデンパレス1996/9）。
日本応用数学会年会「数学教育部門」討論会出席	1996年 9月26日 ～現在に至る	渡邊信助教授（東海大・海洋）によるグラフ電卓（テキサス・インスツルメント社 他製造）を用いた効果的数学教育の事例研究発表をもとにして、今後の大学初年級の効果的な数学授業のあり方を、日本数学会理事 岡本和夫（東大）、日本数学会理事 浪川幸彦（名大）他と共に討論した（1996/9）。
工学研究科委員長としての大学院の充実化に向けた取組	2006年 4月 ～現在に至る	中教審答申「我が国の高等教育の将来像」（平成17年1月）、中教審答申「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－」（平成17年9月）および文部科学省事務連絡（平成18年3月30日）「大学院教育振興施策要綱の策定について」に基づいて、大学院教育の実質化を、体系的な教育課程の編成計画のもとに促進している。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
産学連携IT人材育成のためのパーソナルスキル（ロジカルシンキング）養成教育コンテンツ	共著	2012年 2月	（独立行政法人 情報処理推進機構（IPS））	コンテンツ開発：富士通ラーニングメディア監修：成田清正	
情報セキュリティ実践的教育コンテンツ	共著	2012年 9月	（独立行政法人 情報処理推進機構（IPS））	コンテンツ開発：富士通ラーニングメディア監修：成田清正	
日本応用数学会『応用数理ハンドブック』（査読付）	共著	2013年 9月	（朝倉書店）	薩摩順吉、大石進一、杉原正顕編集。数理ファイナンスの章編集主査及びブラウン運動理論の原稿執筆を担当成田清正	
論文					

Asymptotics for option pricing in fractional stochastic volatility with arbitrary Hurst parameter. (査読付)	単著	2010年10月	Far East J. Theoretical Statistics (F JTS) (2010) 32(2)		101-173頁
Implied volatility under fractional stochastic volatility in Black-Scholes model. (査読付)	単著	2011年 4月	Far East J. Theoretical Statistics (F JTS) (2011) 35(01)		1-49頁
Multiscale stochastic volatility driven by fractional Brownian motion. (査読付)	単著	2012年 4月	Far East J. Theoretical Statistics (F JTS) (2012) 39(02)		79-139頁
Stochastic volatility corrections for bond pricing in the fractional Vasicek model. (査読付)	単著	2013年 4月	Far East J. Theoretical Statistics (F JTS) 44(01)		1-50頁
Linear stochastic differential equation driven by multifractional Brownian motion. (査読付)	単著	2014年 7月	Far East J. Theoretical Statistics (F JTS) 47(2)		87-169頁
その他					

<p>書評 Ciotir, Ioana and Rascanu, Aurel 「Viability for differential equations driven by fractional Brownian motion」 J. Differential Equations 247 (2009), no. 5, pp. 1505-1528.</p>	<p>单著</p>	<p>2010年 4月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2010) 2010j: 60139</p>		
<p>書評 Yong, Jiongmin. 「Forward-backward stochastic differential equations with mixed initial-terminal conditions」 Trans. Amer. Math. Soc. 362 (2010), no. 2, pp. 1047-1096.</p>	<p>单著</p>	<p>2010年 5月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2010) MR2551515</p>		
<p>書評 Li, Juan and Gu, Yan Ling. 「Valuation of futures options with initial margin requirements and daily price limit」 Acta Math. Sin. (Engl. Ser.) 26 (2010), no. 3, pp. 579-586.</p>	<p>单著</p>	<p>2010年 6月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2010) MR2591616</p>		
<p>神奈川大学「工学部・工学研究科・工学研究所紹介冊子(2010年度)」巻頭言</p>	<p>单著</p>	<p>2010年 6月</p>			<p>-i-頁</p>

書評 Brannstrom, N. 「Averaging in weakly coupled discrete dynamical systems」 J. Nonlinear Math. Phys. 16 (2009), no. 4, pp. 465-487.	単著	2010年 8月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2010) MR2606132		
「FBMの確率ボラティリティから影響を受けるBlack-Scholes方程式」	単著	2010年 9月	日本応用数学会2010年度年会 (明治大学2010-9) [講演予稿集]		187-188頁
「FBMの確率ボラティリティをもつBlack-Scholesモデル」	単著	2010年 9月	日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会 (2010 コラッセふくしま (CORASSE)) [アブストラクト集]		140-141頁
「チャートの自動描画アルゴリズムの研究」	共著	2010年 9月	電子情報通信学会2010年ソサイエティ大会 CD-ROM (大阪府立大学 2010-9)	石田浩章、佐々木太良、成田清正	
「漫画の著作権管理方法の研究」	共著	2010年 9月	電子情報通信学会2010年ソサイエティ大会 CD-ROM (大阪府立大学 2010-9)	川島 怜、佐々木太良、成田清正	
「Black-Scholesモデルにおける確率ボラティリティの解析 (1)」	共著	2010年10月	日本経営工学会秋季研究大会2010 (九州工大 2010-10) 予稿集	國谷孝一、佐々木太良、成田清正	291-292頁
「揺らぎを含む非線形競争モデルの解析」	共著	2010年10月	日本経営工学会秋季研究大会2010 (九州工大 2010-10) 予稿集	中道陵亮、佐々木太良、成田清正	256-257頁

<p>書評 Azmoodeh, E., Mishura, Y. and Valkeila, E. 「On hedging European options in geometric fractional Brownian motion market model」 Statist. Decisions 27 (2009), no. 2, pp. 129-143.</p>	<p>単著</p>	<p>2011年 1月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2662719</p>		
<p>書評 Guo, Xiao-lin and Wu, Shu-jin 「p-moment boundedness of stochastic differential output systems with finite delay」 J. Math. (Wuhan) 30 (2010), no. 3, pp. 431-438. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2011年 1月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2677353</p>		
<p>書評 Lejay, Antone 「Controlled differential equations as Young integrals: a simple approach」 J. Differential Equations 249 (2010), no. 8, pp. 177-1798.</p>	<p>単著</p>	<p>2011年 1月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2679003</p>		

<p>書評 Wang, Xiao-Tian 「Scaling and long-range dependence in option pricing I: pricing European option with transaction costs under the fractional Black-Scholes model」 Phys. A. 389 (2010), no. 3, 438-444. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2011年 3月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2575122</p>		
<p>書評 Wang, Xiao-Tian, Yan, Hai-Gang, Tang, Ming-Ming and Zhu, En-Hui 「Scaling and long-range dependence in option pricing III: a fractional version of the Merton model with transaction costs」 Phys. A. 389 (2010), no. 3, 452-458. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2011年 3月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2575124</p>		

<p>書評 Wang, Xiao-Tian, Zhu, En-Hui, Tang, Ming-Ming and Yan, Hai-Gang 「Scaling and long-range dependence in option pricing II: pricing European option with transaction costs under the mixed Brownian-fractional Brownian model」 Phys. A. 389 (2010), no. 3, 445-451. (査読付)</p>	単著	2011年 3月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2011) MR2575123		
<p>書評 Clark, J. and Maes, C. 「Diffusive behavior for randomly kicked Newtonian particles in a spatially periodic medium」 Comm. Math. Phys. 301 (2011), no. 1, 229-283. (査読付)</p>	単著	2011年 6月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012a: 82088.		
<p>神奈川大学「工学部・工学研究科・工学研究所紹介冊子(2011年度)」巻頭言</p>	単著	2011年 6月			-i-頁
<p>「Black-Scholes Modelにおける確率ボラティリティの解析(2)」</p>	共著	2011年 9月	2011年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集(甲南大学 2011-09)	國谷孝一、佐々木太良、成田清正	124-125頁

「FBMの影響を受けるBlack-Scholesモデルのインプライドボラティリティ」	単著	2011年 9月	日本応用数学会2011年度年会（同志社大学 2011-9） [講演予稿集]		61-62頁
「線情報成分へのデータ埋め込みによる著作権管理の研究」	共著	2011年 9月	電子情報通信学会2011年ソサイエティ大会, CD-ROM（北海道大学 2011-09）	川島 怜、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
「非線形競争モデルにおける動的挙動の解析」	共著	2011年 9月	2011年日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集（甲南大学 2011-09）	中道陵亮、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	140-141頁
「BSモデルにおけるFBM確率ボラティリティの解析」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	國谷孝一、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	62-63頁
「ブラウン運動の理論に基づくトラヒック解析」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	加藤史悟、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	272-273頁
「ブラウン運動を用いた為替相場の解析」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	錦織 海、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	266-267頁
「確率競争モデルにおける安定性解析の研究」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	中道陵亮、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	270-271頁
「線画へのデータ埋め込みの研究」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	川島 怜、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	262-263頁

「誤り訂正符号による著作権保護の研究」	共著	2011年11月	日本経営工学会秋季研究大会予稿集（岩手県立大学 2011-11）	栗村 真、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	212-213頁
「オリオン輝く丘の上に」, 学問への誘い 2012年度版, 神奈川大学	単著	2011年12月	学問への誘い・神奈川大学		20-24頁
書評 Baudoïn, F. and Ouyang, C. 「Small-time kernel expansion for solutions of stochastic differential equations driven by fractional Brownian motions」 Stochastic Process Appl. 121 (2011), no. 4, 759-792. (査読付)	単著	2012年 1月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012a:60105.		
「FBMのハースト指数を用いた為替相場の解析」	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会 CD-ROM (岡山大学 2012-03)	錦織 海、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
「フラクショナル幾何ブラウン運動を用いたトラヒック解析」	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会 CD-ROM (岡山大学 2012-03)	加藤史悟、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
「誤り訂正符号によるwatermarkの精度向上の研究」	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会 CD-ROM (岡山大学 2012-03)	栗村 真、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	

<p>書評 Boufoussi, B. and Hajji, S. 「Functional differential equations driven by a fractional Brownian motion」 Comput. Math. Appl. 62 (2011), no. 2, 746-754. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 5月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012e: 60157</p>		
<p>書評 Klusik, P. and Palmpowski, Z. 「Quantile hedging for equity-linked contracts」 Insurance Math. Econom. 48 (2011), no. 2, 280-286. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 5月</p>	<p>AMS Mathematical Reviews (2012) 2012e: 91159</p>		
<p>書評 Nagai, H. 「Asymptotics of the probability of minimizing ‘down-side’ risk under partial information」 Qunt. Finance 11 (2011), no. 5, 789-803. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 5月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012e:60178</p>		

<p>書評 Swishchuk, A. and Xu, Li 「Pricing variance swaps for stochastic volatilities with delay and jumps」 Int. J. Stoch. Anal. 2011, Art. ID 435145, 27pages. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 6月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012f: 60236</p>		
<p>神奈川大学「工学部・工学研究科・工学研究所紹介冊子 (2012年度)」巻頭言</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 6月</p>			
<p>書評 Chen, X., Li, X.-M. and Wu, B. 「A spectral gap for the Brownian bridge measure on hyperbolic spaces」 Progress in analysis and its applications, 398-404, World Sci. Publ., Hackensack, NJ, 2010. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 7月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012g: 58068</p>		
<p>書評 Friz, P., Gerhold, S. 「Gulisashvili, A. and Sturm, S.; On refined volatility smile expansion in the Heston model」 Quant. Finance 11 (2011), no. 8, 1151-1164. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 7月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012g: 60219</p>		

「マルチスケールの確率ボラティリティをもつBlack-Scholesモデル」(査読付)	単著	2012年 8月	日本応用数理学会2012年度年会講演予稿集(稚内全日空ホテル 幹事校・早稲田大学 2012-08)		153-154頁
書評 Maes, C. and Shlosman, S. 「Rotating states in driven clock- and XY-models」 J. Stat. Phys. 144 (2011), no. 6, 1238-1246. (査読付)	単著	2012年 8月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012h:82033		
書評 Pulch, R. 「Modelling and simulation of autonomous oscillators with random parameters」 Math. Comput. Simulation 81 (2011), no. 6, 1128-1143. (査読付)	単著	2012年 8月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012h: 34115		
「FBSを用いた外国為替オプション理論価格導出の問題」	共著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年ソサイエティ大会 CD-ROM (富山大学 2012-09)	錦織 海、佐々木太良、成田清正	
「フラクショナル幾何ブラウン運動と線形時変フィルタを用いたトラヒック解析」	共著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年ソサイエティ大会 CD-ROM (富山大学 2012-09)	加藤史悟、佐々木太良、成田清正	

「ヴァイオリンの運指の物理モデルに関する研究」	共著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年ソサイエティ大会CD-ROM (富山大学2012-09)	越塚晃佑、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
「機械検出可能なWatermarkの研究」	共著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年ソサイエティ大会CD-ROM (富山大学2012-09)	粟村 真、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
「確率ポラティリティの影響を受けるファイナンスモデルの解析」	共著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年ソサイエティ大会CD-ROM (富山大学2012-09)	岩田和也、佐々木太良、 <u>成田清正</u>	
書評 Baiesi, M., Maes, C. and Wynants, B. 「The modified Sutherland-Einstein relation for diffusive non-equilibria」 Proc. R. Soc. Lond. Ser. A Math. Phys. Eng. Sci. 467 (2011), no. 2134, 2792-2809. (査読付)	単著	2012年 9月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012i:82043		

<p>書評 Soos, A. 「Approximation of the solution of stochastic differential equations driven by multifractional Brownian motion」 Stud. Univ. Babeş-Bolyai Math. 56 (2011), no. 2, 587-598. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年 9月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012i:60126</p>		
<p>書評 Klimsiak, T. and Rozkosz, A. 「On backward stochastic differential equations approach to valuation of American options」 Bulletin of the Polish Academy of Sciences Mathematics, 59 (2011), no. 3, 275-288. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年10月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012k:91315</p>		
<p>書評 Mosincat, R., Preda, C. and Preda, P. 「Averaging theorems for the large-time behavior of the solutions of nonautonomous systems」 Systems Control Lett. 60 (2011), no. 12, 994-999. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年10月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012m:47075</p>		

<p>書評 Sausseureau, B. 「Transportation inequalities for stochastic differential equations driven by a fractional Brownian motion」 Bernoulli 18 (2012), no. 1, 1-23. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年11月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) MR2888696</p>		
<p>書評 Solo, V. 「Averaging analysis of adaptive algorithms made simple」 System identification, environmental modelling, and control system design, 115-131, Springer, London, 2012. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年11月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) 2012j:93006</p>		
<p>書評 Barski, M. 「Quantile hedging for basket derivatives」 Appl. Math. (Warsaw) 39 (2012), no. 1, 103-127. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2012年12月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) MR2880257</p>		

<p>書評 Joubaud, R. and Stoltz, G. 「Nonlequilibrium shear viscosity computations with Langevin dynamics」 Multiscale Model. Simul. 10 (2012), no. 1, 191-216. (査読付)</p>	<p>单著</p>	<p>2012年12月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) MR2902604</p>		
<p>書評 Li, Xue-Mei. 「The stochastic differential equation approach to analysis on path space」 New trends in stochastic analysis and related topics, 207-226, Interdiscip. Math. Sci. 12, World Sci. Publ, Hackensack, NJ, 2012. (査読付)</p>	<p>单著</p>	<p>2012年12月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2012) MR2920201</p>		
<p>書評 Jankovic, S., Jovanovic, M. and Djordjevic, J. 「Perturbed backward stochastic differential equations」 Math. Comput. Modelling 55 (2012), no. 5-6, 1734-1745. (査読付)</p>	<p>单著</p>	<p>2013年 1月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR2899119</p>		

「コスト関数を用いたヴァイオリンの運指の物理モデルに関する研究」	共著	2013年 3月	電子情報通信学会2013年総合大会, CD-ROM (岐阜大学 2013-03)	越塚晃佑, 佐々木太良, 成田清正	
「ファイナンスモデルにおけるマルチフラクショナルブラウン運動」	単著	2013年 3月	日本応用数理学会2013年研究部会連合発表会 (東洋大学 白山キャンパス, 2013-03)		
「確率ボラティリティを持つVasicekモデルの解析」	共著	2013年 3月	電子情報通信学会2013年総合大会, CD-ROM (岐阜大学 2013-03)	岩田和也, 佐々木太良, 成田清正	
書評 Zhang, D. and Chen, Z. 「Exponential stability for stochastic differential equation driven by G-Brownian motion」 Appl. Math. Lett. 25 (2012), no. 11, 1906–1910. (査読付)	単著	2013年 4月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR2957777		
書評 Abbas-Turki, L. A. and Lapeyre, B. 「American options by Malliavin calculus and nonparametric variance and bias reduction methods」 SIAM J. Financial Math. 3 (2012), 479-510. (査読付)	単著	2013年 5月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR2968043		

書評 Mudzimbabwe, W, Patidar, K.C. and Witbooi, P.J. 「European basket option pricing by maximizing over a \subset of lower bounds」 Quaest. Math. 35 (2012), no. 4, 507-520. (査読付)	単著	2013年 7月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR3000004		
「FBMとMBMの影響を受けるVasicekモデル」	単著	2013年 9月	日本応用数理学会2013年度年会 (アクロス福岡、幹事校:九州大学), 講演予稿集PDF (講演番号 9027, pp. 52-53)		
「改良したコスト関数と物理モデルによるヴァイオリンの運指の研究」	共著	2013年 9月	電子情報通信学会2013年ソサイエティ大会, CD-ROM (福岡工業大学 2013-09)	越塚晃佑, 佐々木太良, 成田清正	
「確率ボラティリティの影響を受けるBond pricingの解析」	共著	2013年 9月	電子情報通信学会2013年ソサイエティ大会, CD-ROM (福岡工業大学 2013-09)	岩田和也, 佐々木太良, 成田清正	
書評 Guo, Zhi Jun and Platen, E. 「The small and large time implied volatilities in the minimal market model」 Int. J. Theor. Appl. Finance 15 (2012), no. 8, 1250057, 23pages. (査読付)	単著	2013年 9月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR3011744		

<p>書評 Gerhold, S., Muhle-Karbe, J. and Schachermayer, W. 「The dual optimizer for the growth-optimal portfolio under transaction costs」 Finance Stoch. 17 (2013), no. 2, 325-354. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2013年11月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2013) MR3038594</p>		
<p>書評 Mao, Xuerong and Sabanis, S. 「Delay geometric Brownian motion in financial option valuation」 Stochastics 85 (2013), no. 2, 295-320. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2014年 2月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2014) MR3056192</p>		
<p>「マルチフラクショナルブラウン運動によるファイナンスモデル」</p>	<p>単著</p>	<p>2014年 3月</p>	<p>日本オペレーションズ・リサーチ学会2014年春季研究発表会, アブストラクト集 (大阪大学 2014-03)</p>		<p>28-29頁</p>
<p>書評 Gombani, A. and Runggaldier, W. J. 「Arbitrage-free multifactor term structure models: a theory based on stochastic control」 Math. Finance 23 (2013), no. 4, 659-686. (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>2014年 5月</p>	<p>AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2014) MR3094716</p>		

書評 Leung, Tim, Song, Qingshuo and Yang, Jie 「Outperformance portfolio optimization via the equivalence of pure and randomized hypothesis testing」 Finance Stoch. 17 (2013), no. 4, 839-870. (査読付)	単著	2014年 7月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2014) MR3105936		
「Multifractional Black-Scholes モデルに対するIto 公式」	単著	2014年 8月	日本オペレーションズ・リサーチ学会2014年秋季研究発表会、アブストラクト集 (北海道科学大学 2014-08)		222-223頁
「マルチフラクショナルブラウン運動から導かれるBS方程式」	単著	2014年 9月	日本応用数理学会2014年度年会 (政策研究大学院大学)、講演予稿集 Web-PDF版		
書評 Privault, N. 「Stochastic Finance: An Introduction with Market Examples」 Chapman & Hall/CRC Financial Mathematics Series. CRC Press, Boca Raton, FL, 2014. xvi+426pp. (査読付)	単著	2015年 1月	AMS (米国数学会) Mathematical Reviews (2015) MR3202743		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
1967年 4月～現在に至る	個人研究 確率微分方程式の理論と応用
1972年 4月～現在に至る	日本数学会(国内学会)会員
1972年 4月～現在に至る	確率論セミナー 会員
1988年12月～2014年12月	AMS (米国数学会) 機関誌「Mathematical Reviews」のReviewer(評者)を委嘱される Reviewer
1992年 1月～2014年12月	SIAM【Society for Industrial and Applied Mathematics】(アメリカ工業及び応用数学会)(国際学会)会員
1993年 6月～2015年 3月	日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)会員
1993年 6月～2015年 3月	日本応用数理学会 (Japan SIAM) (国内学会)会員
1993年 6月～2015年 3月	日本応用数理学会 (Japan SIAM) (国内学会)日本応用数理学会年会若手優秀講演賞評価員
1993年 7月～2014年12月	AMS (米国数学会) (国際学会)会員
1998年 4月～2015年 3月	日本ロジスティクス・システム学会(国内学会)会員
1998年 6月～2014年 3月	日本ロジスティクス・システム学会(国内学会)評議員
2000年 4月～現在に至る	個人研究 フラクショナルブラウン運動の確率解析
2004年 4月～現在に至る	個人研究 数理ファイナンス
2005年 4月～2013年 3月	個人研究 フラクタルマーケットの解析
2008年 9月～2013年 9月	日本応用数理学会年会若手優秀講演賞審査委員会 評価員
2010年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 900,000円 「基盤研究(C) 一般」確率ボラティリティの影響を受けるフラクタルマーケットの研究(課題番号 22510161) (研究代表者)
2011年 4月～2015年 3月	日本応用数理学会 (Japan SIAM) (国内学会)欧文機関誌 JSIAM-Letters 編集委員 (数理ファイナンス分野幹事)
2011年 9月～2013年 9月	日本応用数理学会 (Japan SIAM) (国内学会)日本応用数理学会設立20周年記念出版『応用数理ハンドブック』数理ファイナンス研究部会編集委員主査
2011年 9月～2015年 3月	日本応用数理学会 (Japan SIAM) 、数理ファイナンス研究部会主査・幹事(国内学会)数理ファイナンス研究部会主査・幹事
2012年 8月～2013年 9月	Vienna University of Technology若手数学優秀論文賞 (2012年、2013年、2014年) 審査委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 准教授	氏名 内田 智史	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
関東工学教育協会賞（業績賞）		2007年 5月 ～現在に至る	授業管理支援システムWebLecとその開発・運用支援体制		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
アセンブラ入門 CASL II 第3版	単著	2012年 9月	(電子開発学園出版局)		
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			

1981年10月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
1985年10月～現在に至る	ソフトウェア科学会(国内学会)会員
1986年 8月～現在に至る	日本経営工学会(国内学会)会員
1986年10月～現在に至る	人工知能学会(国内学会)会員
1990年 5月～現在に至る	日本物流学会(国内学会)会員
1997年～現在に至る	個人研究 ソフトウェア開発環境
1997年～現在に至る	個人研究 ネットワーク上におけるファイル管理の一考察
1997年～現在に至る	個人研究 自然な数学インタフェースを持つプログラミング環境
1999年 4月～現在に至る	経営情報学会(国内学会)会員
1999年 4月～現在に至る	経営情報学会(国内学会)普及誌編集委員
1999年10月～現在に至る	国税専門官採用試験試験 専門委員
2000年 4月～現在に至る	教育システム情報学会(国内学会)会員
2000年 4月～現在に至る	日本教育情報学会(国内学会)会員
2001年～現在に至る	個人研究 教育用ソフトウェアの開発
2002年～現在に至る	個人研究 e-Learning教材開発
2003年 4月～現在に至る	経営情報学会(国内学会)普及誌編集委員会
2005年 4月～現在に至る	個人研究 授業管理支援システム
2005年 4月～現在に至る	個人研究 Webアプリケーション開発技術
2014年 4月～現在に至る	個人研究 電子書籍による動的コンテンツの有効的な活用方法

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助手	氏名 小澤 幸夫	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
中堅看護師のスキル修得プロセスに関する調査研究	共著	2012年11月	「人間工学」(日本人間工学会) 48(6)	小澤幸夫村田厚生	313-323頁
看護師のキャリアパス別の必要スキルとコア能力に関する調査研究(査読付)	共著	2014年12月	日本人間工学会誌(日本人間工学会) Vol. 50 (No6)	◎小澤幸夫 村田厚生	359-367頁
その他					

なし				
Ⅲ 学会等および社会における主な活動				
年月	内容			
2001年 4月～現在に至る	日本人間工学会 評議員			
2005年 4月～現在に至る	個人研究 看護師のCDPに関する研究			
2005年 4月～現在に至る	個人研究 看護業務の標準化			
2005年 4月～現在に至る	個人研究 看護職の負担に関する研究			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助手	氏名 佐々木 太良	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
マルチメディア実験・ネットワーク実験の企画・運用		2002年 4月 1日 ～2014年 3月31日	<p>経営工学科の3年次必修科目(前・後期)である『経営工学実験実習I/II』において、マルチメディアおよびネットワーク技術について実験・実習する小分類『マルチメディア実験』(4テーマ)・『ネットワーク実験』(4テーマ)を主に企画し立ち上げた。この科目での同内容の修得は、文部科学省による教員免許『情報』を経営工学科に対し許認可する要件となっている。また経営工学科の卒業生の多くはネットワーク関連のSEとして活躍している。</p> <p>2006年度からは同科目の実験内容は『経営工学実験』『情報技術実習』に引き継がれている。</p> <p>2008年度からは同内容の実験はマルチメディア実験6テーマ・ネットワーク実験6テーマに拡張し、『工学基礎演習I/II』内の実験として2年次生に実習させている。</p>		
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

神奈川大学情報倫理ガイドブック 2010年度改訂版	共著	2010年 4月		神奈川大学メディア教育・情報システム委員会、情報倫理ガイドブック作成ワーキンググループka	
神奈川大学情報倫理ガイドブック 2014年度改訂版	共著	2014年 4月			
論文					
なし					
その他					
チャートの自動描画アルゴリズムの研究	共著	2010年 9月	電子情報通信学会2010年ソサイエティ大会	石田浩章 佐々木太良 成田清正	
線情報成分へのデータ埋め込みによる著作権管理の研究	共著	2011年 9月	電子情報通信学会2011年ソサイエティ大会 予稿 A-8-1	川島 怜・佐々木太良・成田清正	
FBMのハースト指数を用いた為替相場の解析	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会予稿 A-6-10	錦織 海・佐々木太良・成田清正	
フラクショナル幾何ブラウン運動を用いたトラヒック解析	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会予稿 A-6-9	加藤史悟・佐々木太良・成田清正	
誤り訂正符号による watermarkの精度向上の研究	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2012年総合大会予稿 A-6-11	粟村 真・佐々木太良・成田清正	
こどもサマースクール2013 (情報システム創成学科) マルチメディア実験	共著	2013年 7月			
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
		個人研究 漢字文字図形の符号化と自動生成の研究			
		個人研究 試し見・試聴を許す電子著作物の配布方式に関する研究			
		個人研究 超分散ファイルシステムの研究			

1991年 4月～2015年 3月	電子情報通信学会(国内学会)会員
2000年 1月～2011年12月	Association for Computing Machinery(国際学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 助教	氏名 奥野 祥二	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
レポートに対する添削とアドバイス		1995年 4月 ～現在に至る	実験などのレポートに対し添削を行い、このときに単なる解答にはしないで、どこが良くてどこが悪いのかを指摘し、改善を促す指導を実践している。		
2 作成した教科書、教材					
実験実習テキスト(経営工学実験実習、経営工学実験実習 I、II、コースワークV、VI(経営工学コース))		1995年 4月 ～現在に至る	担当課題の設定、テキストの執筆、教材作成を受け持っている。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					
III 学会等および社会における主な活動					

年月	内容
	個人研究 メガネ型フリッカー試験器に関する研究
	国際共同研究 CP非保存に関する研究
	機関内共同研究 人工ダイヤモンド放射線検出器に関する研究
1991年 7月～現在に至る	日本物理学会(国内学会)会員
1995年 7月～現在に至る	日本経営工学会(国内学会)会員
1995年11月～現在に至る	計測自動制御学会(国内学会)会員
1998年 6月～現在に至る	日本ロジスティクスシステム学会(国内学会)会員
2002年11月～現在に至る	応用物理学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 半導体放射線検出器に関する研究

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 杉本 剛	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
全学共通科目FYS用副読本「知の作法――FYS++」を作成した。		2005年 3月15日 ～現在に至る			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
上級教育士（工学・技術）		2007年 1月 ～現在に至る	(社)日本工学教育協会の認定資格		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
技術者教育認定機構審査員登録		2002年11月 ～現在に至る			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
かたち・機能のデザイン辞典	共著	2011年 1月	(丸善(株))	高木隆司編集委員長ほか	pp. 752頁
論文					
Philosophiae Naturalis Principia Mathematica邦訳書の 底本に関するノート（ 査読付）	単著	2010年 4月	技術文化論叢（東京工業 大学技術構造分析講座） （第13号）		1-14頁

A Theory for Ciliary Gliding in Freshwater Planarians (査読付)	単著	2010年10月	J. Aero Aqua Bio-Mech. 1(1)		57-63頁
Discourse on the Latus Rectum in Conics (査読付)	単著	2013年 8月	Symmetry: Culture and Science 24(1-4)		295-309頁
The Historic Japanese Visitors to St Helena	単著	2014年 9月	Wirebird 43		21-33頁
その他					
エドモンド・ハレーとニュートンのプリキピアとの関わりの三相	単著	2010年 5月	日本科学史学会第57回年会・総会研究講演要旨集		75頁
円錐曲線の代表長「通径」概念の変遷	単著	2010年 6月	形の科学会誌 25(1)		81-82頁
Designing the optimum regulator for the bounding flight	単著	2010年 9月	2nd International Conference on Engineering Optimization Book of Abstract		45-46頁
Solving the paradox about the avian pulmonary system	単著	2010年 9月	EuroMech Fluid Mechanics Conference 8 Abstracts		S11-11頁
円錐曲線論の本邦への初導入とニュートンのプリキピア	単著	2010年11月	形の科学会誌 25(2)		190-191頁
自立そして共生の促進	単著	2011年 1月	ゴムタイムス (1月24日号)		6頁
図解論の展開	単著	2011年 2月	形の科学会誌 25(3)		237-238頁
生き物のデザイン	単著	2011年 4月	埼玉工業大学「かたち研究会」主催講演会		

コートによるプリンキピア编者前書き	単著	2011年 5月	日本科学史学会第58回年 回・総会 研究発表講演 要旨集		31頁
彗星理論の変遷—天体 力学の観点から	単著	2011年 6月	形の科学会誌 26(1)		93-94頁
Stability of small particles suspended at fluid interfaces	単著	2011年 7月	ICIAM 2011 Abstract		492頁
九州で繁殖するサンバ は、なぜ春に遠回りの 経路を渡るのか？	共著	2011年 9月	日本鳥学会2011年大会講 演要旨集	菅澤承子、山口典之、杉本剛、 樋口広芳	51頁
推進する生物がつくる 流れ場の構造について	単著	2011年 9月	「日本流体力学会年会 2011講演アブストラクト 集」(日本流体力学会)		225頁
Formation of the Rotating Stellar Structures	単著	2011年11月	Tohoku University ICFD2011 Abstract Book		91-92頁
金星過日—天文単位測 定問題	単著	2011年12月	形の科学会誌 26(2)		233-234頁
The long way round is the short way home: the importance of wind conditions in migration route selection by Grey-faced Buzzards Butastur indicus.	共著	2012年 3月	Book of Abstracts, 5th International Congress of East Asian Federation of Ecological Societies	Sugasawa, S., Yamaguchi, N., Sugimoto, T., Higuchi, H.	p. 381頁
ニュートンのプリンキ ピアは形の科学啓もう 書	単著	2012年 3月	神奈川大学工学部報告 (50)		35-37頁
万有引力の逆二乗則— —ニュートン流証明の 現代的定式化	単著	2012年 3月	形の科学会誌 26(3)		324-325頁

Edmond Halley's Account of Bird Flight	単著	2012年 4月	Abstract Book of Biological Flow: A Conference to Celebrate 70th Birthday of Timothy J. Pedley		35頁
プリンキピア第III書 命題XXXIII問題XIV：月の理論の謎	単著	2012年 5月	日本科学史学会第59回年回・総会 研究発表講演要旨集		p. 89頁
金星過日 (展示)	単著	2012年 5月	セレスト・ギャラリー@神奈川大学		6頁
楕円と双曲線には主通径しかない・・・	単著	2012年 6月	形の科学会誌 27(1)		41-42頁
RING-PATTERN FORMATION IN THE ROTATING STELLAR STRUCTURES (査読付)	単著	2012年 8月	Abstract Book, 23rd ICTAM		p. 228頁
Ahaの体験 (展示)	単著	2012年 9月	セレスト・ギャラリー@神奈川大学		
エドモンド・ハレーによる鳥の飛行の解明	単著	2012年 9月	日本流体力学会年会2012 講演論文集		
Ahaの体験——アルキメデスの求積3題	単著	2012年11月	形の科学会誌 27(2)		152-153頁
プリンキピア第I書補助定理XIII：典拠の謎と円錐曲線論史上の役割	単著	2013年 5月	日本科学史学会第60回年会・総会 研究発表講演要旨集		73頁
筆を持たない芸術家 岡倉天心の原点——横浜時代の英学・漢学修業	単著	2013年 6月	形の科学会誌 28(1)		42-43頁

DISCOURSE ON THE LATAS RECTUM IN CONICS (査読付)	単著	2013年 8月	Symmetry Festival 2013 Abstracts		223-226頁
Symptomaを活用した円 錐曲線の作図法	単著	2013年11月	形の科学会誌 28(2)		142-143頁
「ケプラー順問題の解 =宇宙の方程式」とし たばあいの解の唯一性 について	単著	2013年12月	形の科学会誌 28(3)		232-3頁
セント・ヘレナ島に立 ち寄った天正遣欧使節	単著	2013年12月	図書館だより (神奈川大 学図書館) (141)		3頁
アルキメデスとニュー トンの偉業を見つめ直 してわかること	単著	2014年 4月	第21回応力科学セミナー (北陸先端科学技術大学 院大学)		
プリンキピアにおける 「向心力」の導入とそ の定義の変遷	単著	2014年 5月	日本科学史学会第61回年 会・研究講演会		99頁
アルキメデスの求積法 と高木の関数	単著	2014年 6月	形の科学会誌 29(1)		42-43頁
エドモンド・ハレーに よるセント・ヘレナ島 での天体観測	単著	2014年12月	火ゼミ (火ゼミ運営委員 会) (88)		1頁
「セント・ヘレナ島」 のオーラ	単著	2015年 1月	火ゼミ通信(東京工業大 学) 89		2頁
英国天文学の黎明	単著	2015年 3月	形の科学会誌 29(3)		6-7頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
1990年 4月～現在に至る	形の科学会(国内学会)会員				
1991年 4月～現在に至る	個人研究 生物流体力学				
1991年 4月～現在に至る	個人研究 設計学				
1991年 5月～現在に至る	米国航空宇宙学会 (A I A A) (国際学会)Senior Member				
1993年 1月～現在に至る	(社)日本流体力学会(国内学会)会員				

1993年 4月～現在に至る	ニュージーランド鳥学会 (O S N Z) (国際学会)Life Member
1997年 1月～現在に至る	米国工業応用数学会 (S I A M) (国際学会)会員
1999年 4月～現在に至る	個人研究 環境学
2002年 1月～現在に至る	欧州力学会 (EuroMech) (国際学会)会員
2003年 8月～現在に至る	数理生物学会 (S M B) (国際学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 地球・惑星環境問題の理論解析
2005年 4月～現在に至る	個人研究 生物の生き様の理論解析
2006年 4月～現在に至る	個人研究 創造過程の科学的研究
2008年 7月～現在に至る	FORMA Associate Editor
2008年 7月～2011年 1月	「かたち・機能のデザイン事典」編集 編集委員
2009年 8月～現在に至る	International Symmetry Association Member of Executive Board
2009年10月～現在に至る	日本科学史学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部情報システム創成学科	教授	進藤 晋	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
FD研究授業		2006年11月21日 ～現在に至る	「ファイナンス工学」の公開授業を行った。
2 作成した教科書、教材			
なし			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
学生による授業評価アンケート		2008年 7月 ～現在に至る	アンケートへの対応として、授業内容、特にコンピュータ演習用の問題の入れ替えを行い、授業の改善につとめた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項			
なし			
5 その他			
JABEE地区別シンポジウム（関東地区）「国際的に通用する大学院教育のために」		2006年11月27日 ～現在に至る	JABEEが目指す大学院外部認定制度についての考え方やそのシステムについてのシンポジウムに参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。
「国際的に通用する大学院教育のために」大学院修士課程プログラム認定申請予定校との意見交換会		2007年 3月 7日 ～現在に至る	標記シンポジウムに参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。
「国際レベルの教育と大学院認定の実現を目指して」大学院認定審査員並びに国際審査員候補者および関係者の研修会		2007年 3月19日 ～現在に至る	標記研修会に参加し、報告書を大学院工学研究科に提出した。
出前講座（神奈川県立港北高等学校、高大連携）		2007年 6月 1日 ～現在に至る	工学部についてざっくり説明し、さらにに情報システム創成学科の内容について、高校生レベルで詳しく説明した。
出張授業（神奈川県立川崎高等学校、高大連携）		2014年 3月13日 ～現在に至る	「社会と最適化」というタイトルで、模擬授業を実施した。社会で現れる最短時間問題やスケジューリング問題等の最適化問題の概要と解法の説明を演習込みで行った。
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
F-Divergenceに関連する問題について	単著	2013年 3月	京都大学数理解析研究所 講究録 1829 最適化手法の理論 と応用の繋がり		19 - 22頁
非負行列集合で定義されるhomogeneous写像の性質	単著	2014年 4月	京都大学数理解析研究所 講究録1879「最適化の基礎理論と応用」		44 - 47頁
その他					
アフィンモデルを用いたイールドカーブ予測	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度 秋季研究大会 予稿集	林弘太、進藤晋	289 - 290頁
経済のファンダメンタルズを考慮したポートフォリオの構築	共著	2010年10月	日本経営工学会平成22年度 秋季研究大会 予稿集	服部直人、進藤晋	284 - 285頁
Copula Entropy の最大化	単著	2011年 9月	日本OR学会2011年度秋季 研究発表会アブストラクト集		362 - 363頁
Divergence 最適化 - 関連する問題について -	単著	2012年 7月	京都大学数理解析研究所 研究集会「最適化手法の理論と応用の繋がり」		
F-Divergence を定義する凸関数のAdjointについて	単著	2012年 9月	電子情報通信学会2012年 ソサイエティ大会講演論文集		A-6-5 (p.104) 頁
Bushellの方法に基づく非線形行列方程式の正定値解について	単著	2013年 3月	電子情報通信学会2013年 総合大会A-2-21		

非負行列集合上の斉次写像の性質	単著	2013年 8月	京都大学数理解析研究所研究集会「最適化の基礎理論と応用」		
ある区分的線形写像の性質について	単著	2013年 9月	電子情報通信学会2013年ソサイエティ大会A-2-23		
Discrete Linear Inclusion に関連する写像の性質について	単著	2014年 3月	電子情報通信学会2014年総合大会 A-2-14		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1987年 7月～現在に至る		日本OR学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 半正定値計画法			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 金隔工学における最適化			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 非線形相補性問題の解法			
2010年 4月～2012年 3月		科学研究費補助金 1,900,000円 「基盤C (一般 課題番号22510161)」 確率ボラティリティの影響を受けるフラクタルマーケットの研究 (研究分担者)			
2012年 1月～現在に至る		電子情報通信学会(国内学会)会員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 森田 光	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
神奈川大学工学部優秀講義賞		2007年10月10日 ～現在に至る	2007年度上半期の講義に対する受賞		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
電子調達システムの実践導入例の講演会の設定		2006年10月 ～現在に至る	人脈を生かし、情報セキュリティの社会に対する顕著な成功適用例である電子調達システムについて、それに携わった技術者による講演会を設定した。具体的には、横須賀市のシステム構築したリーダーの一人に講演を依頼し、質疑応答を行った。		
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
なし					
その他					
なし					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
年月	内容
1979年12月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
1987年～現在に至る	米国電気電子学会(国際学会)会員
1988年～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員
2002年～現在に至る	日本社会情報学会(国内学会)会員
2002年～現在に至る	米国計算機学会(国際学会)会員
2003年～現在に至る	日本経営工学会(国内学会)会員
2005年 4月～現在に至る	個人研究 安全な情報システム構築のための暗号プロトコル
2005年 4月～現在に至る	個人研究 実装方法、ならびに安全性評価法
2005年 5月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)査読委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 瀬古沢 照治	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
プロジェクト形式の探求型学習 コースワーク 1		2006年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：コースワーク 1) プロジェクト達成科目群の中の第1セメスター。自ら考え、教育課程の理解、学習計画、履修計画ができることを主たる目的とする。学習や生活に取り組む態度と方法を体験することより、自己管理と日本語表現力の重要性を認識し、自己実現に向かって、積極的かつ実践的な行動に取り組むことができる。技術倫理教育も実践。13回実施するミニテストで評価。他に基礎数学ミニテスト作成、実施
クリエイティブ・シンキング		2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：特別工学演習) 特別工学演習の中に、クリエイティブ・シンキング手法をワークしながら実践習得する。無理難題に直面し行き詰るあるいは硬直した頭を解きほぐす。考え方をロジカルシンキングの壁を打ち破る最新セオリーの「創造的思考」として実践。やあらゆる業種で新しい発想が求められているビジネス上の必須スキルを習得させる。
プロジェクト形式の探求型学習 コースワーク 4		2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：コースワーク 4) プロジェクト達成科目群の中の第4セメスター。組織のリーダーとは何かを学び、リーダーとして必要となる能力や資質だけでなく、組織環境やフォロワーの状況に適合したリーダーの対応手法についても学ぶ。13回実施するミニテストで評価。
経営戦略ビジネスシミュレーション		2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：経営工学実験、情報技術実習) 企業経営者としての役割を疑似体験し、財務諸表にもとづいて材料調達、商品生産・販売に関する意思を決定する。ビジネスシミュレータを用いて、各人が各々会社を起業し、材料購入から商品生産・販売までを実施する。その結果に基づき、自社経営を財務諸表で評価し、他の参加者と販売成績を競う。
2 作成した教科書、教材			
コースワーク 1 のテキスト作成、授業計画・方針書の作成		2006年 4月 1日 ～現在に至る	コースワークは (3教員/1クラス) ×3クラスにて実施。授業方針、授業内容についてのコンセンサスを得、同期的に授業内容をシンクロさせ、教育内容の向上を図るために、授業方針書 (11頁)、授業計画書 (29頁)、およびテキスト (136頁：非買品) を作成した。

コースワーク 4 のレクチャーノートを作成	2007年 4月 1日 ～現在に至る	コースワーク 4 は (3教員/1クラス) ×3クラスにて実施。授業内容についての教員のコンセンサスを、同期的に授業内容をシンクロさせ教育内容の向上を図るために、教員用のレクチャーノート (90頁) を作成した。13回実施するミニテスト問題 (25頁) を作成した			
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
企業研究所において海外大学院生 (韓国人) の実務個別指導	1995年 ～現在に至る				
企業研究所において海外学生 (フランス人) の実務個別指導	1999年 ～現在に至る				
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
An Automatic Water Management System for Large-Scale Rice Paddy Fields (査読付)	単著	2010年10月	WSEAS Transactions on systems and control Issue 10 (Volume 5)		pp. 824-834頁
ERP投資評価へのリアルオプションの適用 (査読付)	共著	2010年12月	電気学会論文誌C分冊 1208-C (12)	中兼順、瀬古沢照治	2249-2255頁
コミック「ドラゴン桜」から学ぶこと	単著	2010年12月	学問への誘い (神奈川大学) 2011年度版		pp. 86-90頁

The Real Option for Adaptability to Environment Change in Enterprise Resource Planning System (査読付)	共著	2011年 1月	International Journal of Systems Applications, Engineering & Development Issue 2(Volume 5)	T. Sekozawa, J. Nakagane	pp. 127-134頁
Dynamic Programming Matching for Detecting Abnormalities in Machines Emitting Intermittent Sounds (査読付)	単著	2011年 8月			
エネルギー資源の備蓄運用オプション (査読付)	共著	2012年 4月	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌) 132(4)	浦手健吾, 瀬古沢照治	540-547頁
Three Proposals of Real Options to Investment Valuation for Enterprise Resource Planning Systems (査読付)	単著	2012年 6月	WSEAS Transactions on systems Issue 2(Volume 11)		pp. 50-61頁
A Technique for Diagnosing Abnormalities in Intermittent Sound Emission Mechanisms Based on Dynamic Programming Matching (査読付)	単著	2013年 3月	WSEAS Transactions on systems Volume 12(Issue3)		pp. 131-141頁
Overlapping Control System for Water Distribution Network (査読付)	単著	2013年 5月	International Journal of Systems Applications, Engineering & Development Volume 7(Issue 2)		pp. 77-86頁

New method calculating water residence time for trihalomethane in a water supply network (査読付)	共著	2013年10月	International Journal of Systems Applications, Engineering & Development Volume 7(Issue 3)	Teruji Sekozawa, Kazuaki Masuda, Tomohiro Murata	pp113-121頁
電気自動車による最多点巡回問題と解法の提案 (査読付)	共著	2014年 6月	電気学会論文誌 C (電子・情報・システム部門誌) Vol. 134(No. 6)	瀬古沢照治, 山本進, 増田和明	pp. 773-779頁
自己最良解の分布情報を活用した粒子群分化型Particle Swarm Optimization による複数解探索手法 (査読付)	共著	2014年 9月	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌) (電気学会) 134(9)		1372-1383頁
Demand estimation method using reverse pipe network analysis in water supply network (査読付)	共著	2014年11月	International Journal of Systems Applications, Engineering & Development (8)		292-300頁
その他					
知識情報化社会を支えるシステム技術 (巻頭言：特集号に寄せて) (査読付)	単著	2010年 4月	電気学会論文誌 130(4)		527頁
14th WSEAS International Conference on Systems		2010年 7月	(Greece)		
A Fully Automated Water Management System for Large Rice Paddies (査読付)	単著	2010年 7月	Proceeding of the 14th WSEAS International Conference on Systems		pp. 325-330頁

平成22年電気学会 電子・情報・システム部門大会		2010年 9月	(熊本)		
電気自動車による制限付き巡回問題とアルゴリズムの提案 (査読付)	共著	2010年 9月	平成22年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 講演論文集	山本進、瀬古沢照治	pp. 1227-1229頁
震災時における静岡県道路網の孤立箇所分析 (査読付)	共著	2010年 9月	平成22年電気学会 電子・情報・システム部門大会, 講演論文集	河原崎裕、瀬古沢照治	pp. 953-954頁
9th WSEAS International Conference on System and Simulation Engineering		2010年10月	(Japan)		
The Application of Real Options to ERP Investment Valuation (査読付)	共著	2010年10月	Proceeding of the 9th WSEAS International Conference on System and Simulation Engineering	Jun Nakagane, <u>Teruji Sekozawa</u>	pp. 117-122頁
寸断道路網を考慮した経路最小化による孤立・遅延地域分析 (査読付)	共著	2011年 3月	平成22年 電気学会全国大会 講演論文集[3]	河原崎裕、瀬古沢照治	133-134頁
平成22年電気学会全国大会		2011年 3月	(熊本大学)		
電気自動車による最多ノード巡回問題 (査読付)	共著	2011年 3月	平成22年 電気学会全国大会 講演論文集[3]	山本進、瀬古沢照治	135-136頁
Proceeding of the 11th WSEAS International Conference on Applied Informatics and Communications		2011年 8月	(Italy)		

太陽電池による売電価格を考慮したリアルオプションの提案 (査読付)	共著	2011年 9月	平成23年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集	河原崎裕、瀬古沢照治	1510-1511頁
平成23年電子・情報・システム部門大会		2011年 9月	(富山大学)		
電気自動車における巡回目的地数の最大化 (査読付)	共著	2011年 9月	平成23年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集	山本進、瀬古沢照治	1514-1515頁
風力発電システムにおける貸出ビジネスモデルの評価 (査読付)	共著	2011年 9月	平成23年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集	小林達也、瀬古沢照治	1512-1513頁
A Technique for Diagnosing Abnormalities in Intermittent Sound Emission Mechanisms Based on Dynamic Programming Matching		2011年12月	(Jakarta)		
Dynamic Programming Matching for Detecting Abnormalities in Machines Emitting Intermittent Sounds (査読付)	単著	2011年12月	Proceeding of the 11th WSEAS International Conference on Applied Informatics and Communications		123-128頁
平成24年電気学会 全国大会		2012年 3月	(広島工業大学)		
風力発電貸出ビジネスモデルにおけるオプションの提案 (査読付)	共著	2012年 3月	平成24年電気学会 全国大会 (Vol. 3)	小林達也、瀬古沢照治	133-134頁
交渉を考慮したリアルオプションによるM&A事業評価法 (査読付)	共著	2012年 9月	平成24年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集	小野泰典、瀬古沢照治	1492-1493頁

平成24年 電気学会 電子・情報・システム 部門大会		2012年 9月	(弘前大学)		
風力発電と蓄電池の貸 出ビジネスにおけるオ プシヨンの提案 (査読 付)	共著	2012年 9月	平成24年 電気学会 電 子・情報・システム部門 大会 講演論文集	小林達也、瀬古沢照治	1490-1491頁
Overlapping Control Structure based on Adaptive Control for Water Distribution Network (査読付)	単著	2012年12月	Proceeding of the 3th WSEAS European Conference on Systems (ECS ' 12)		pp. 316-321頁
Proceeding of the 3th WSEAS European Conference on Systems (ECS ' 12)		2012年12月	(Paris, France)		
ゲーム理論を用いた企 業買収契約オプション の評価 (査読付)	共著	2013年 3月	平成25年電気学会 全国 大会 講演論文集	小野泰典、瀬古沢照治	73-74頁
平成25年 電気学会全 国大会		2013年 3月	(名古屋大学)		
Q-learning アルゴリ ズムに基づく Forward-Backward型学 習に関する基礎検討 (査 読付)	共著	2013年 5月	電気学会研究会資料、シ ステム研究会 ST-13-012~017	斎藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照 治	pp. 7-13頁

New Solution Algorithm Determining Water Residence Time in Water Distribution Network (査読付)	共著	2013年 6月	Proceeding of the 15th International Conferences on Automatic Control, Modeling & Simulation (ACMOS ' 13) Proceeding of the 15th International Conferences on Automatic Control, Modeling & Simulation (ACMOS	Teruji Sekozawa, Tomohiro Murata, Kazuaki Masuda	pp. 133-138頁
Proceeding of the 15th International Conferences on Automatic Control, Modeling & Simulation (ACMOS ' 13)		2013年 6月	(Brasov, Romania)		
Q-learning アルゴリズムに基づく Forward-Backward型学習に関する検討	共著	2013年 9月	電気学会 平成25年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 講演論文集	斎藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照治	pp. 394-399頁
企業における買収・合併タイミングの決定 (査読付)	共著	2013年 9月	平成25年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 講演論文集	小野泰典, 瀬古沢照治	pp. 1306-1309頁
平成25年 電気学会 電子・情報・システム部門大会		2013年 9月	(北見工業大学)		
適応的群分化機構を備えたPSOによる複数解探索手法 (査読付)	共著	2013年 9月	電気学会 平成25年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 講演論文集	石川健太, 増田和明, 瀬古沢照治	pp. 581-586頁

過去の有用な知識を利用した適応型 Q-learning (査読付)	共著	2013年11月	計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会2013 講演論文集	斎藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照治	pp. 394-399頁
ゲーム的リアルオプションによるM&Aの評価	共著	2013年12月	電気学会 平成25年度 電気学会九州支部沖縄支所講演会論文集	小野泰典, 瀬古沢照治	pp. 165-170頁
Pipe Network Analysis for Demand Estimation in a Water Distribution Network (査読付)	共著	2014年 5月	Advances in Neural Networks, Fuzzy System and Artificial Intelligence WSEAS Proceeding of the 13th International Conferences on Artificial Intelligence, Knowledge Engineering a	Teruji Sekozawa, Kazuaki Masuda, Tomohiro Murata	pp. 24-29頁
Proceeding of the 13th International Conferences on Artificial Intelligence, Knowledge Engineering and Data Bases (AIKED ' 14)		2014年 5月	(Gdansk, Poland)		
エージェントの行動履歴の活用による Q-learning の学習効率向上	共著	2014年 9月	平成26年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 講演論文集(電気学会)		33-38頁
Q-learning アルゴリズムに基づく Forward-Backward学習の提案 (査読付)	共著	2014年11月	計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会2014(計測自動制御学会) (GS2-8)		71-74頁

エージェントの行動履歴の活用によるQ-learningの学習効率向上(査読付)	共著	2014年12月	電気学会システム研究会(電気学会)(ST-14-032)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1982年～現在に至る		計測自動制御学会(国内学会)会員			
1989年～現在に至る		電気学会(国内学会)会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 上水道における配水制御システム			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 社会インフラのモデル化と最適運用管理			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 金融工学におけるリアルオプション			
2005年 5月～現在に至る		個人研究 自動車エンジン制御システム			
2006年 4月～現在に至る		個人研究 ネットワーク最適化問題			
2007年 4月～現在に至る		個人研究 人間の嗜好を応用した意思決定			
2008年10月～2010年 4月		電気学会(国内学会)電子・情報・システム部門誌特集号(平成22年度)編修委員長			
2008年10月～2010年 4月		電気学会 電子・情報・システム部門誌編集委員会 平成22年度 部門特集号編修委員長			
2009年 4月～現在に至る		電気学会(国内学会)情報システム技術委員会委員			
2009年 4月～現在に至る		電気学会 情報システム技術委員会 委員			
2009年10月～2010年 8月		電気学会 電子・電気・情報部門論文誌(国内学会)名誉会員			
2013年 3月～現在に至る		電気学会(国内学会)フェロー			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助教	氏名 増田 和明	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育方法の実践例			
基礎力定着を実現するプログラミング演習	2008年 4月 ～現在に至る	<p>(授業科目：プログラミング演習I)</p> <p>情報を学習する学生にとってプログラミング能力の向上は必須であるが、学生へ十分な演習を経験させるとともに、応用力を養わせるための工夫として、従来の授業実施方法を大きく変更した。詳細は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭での小テスト実施： 前回内容の復習問題を短答式問題（選択式など）で重要事項を万遍なく含むように出題。プログラムの「要所」を確認し、学力の定着を確認する。 ・講義： 講義内容を整理した資料を作成・配布。サンプルもふんだんに掲載し、次週にも適した教材とした。学生には要点をマークするよう指導し、授業に集中させる効果も狙った。 ・演習： 実際にプログラムを作成させる。 ・宿題： 授業中の学習範囲について一層の実力定着をはかるため、プログラムを自筆で書かせることを中心とした宿題を課した。通常、プログラムは電子的に作成するものであるが、そのため第三者の作成したプログラムを入手できるため、演習に取り組まない学生も見られるため、必ず自らの手を動かして学習させることを狙った。また、フローチャートの作成なども出題した。 ・補講： 学力不足の学生を対象に、補講をおこない、講義中の課題とは別の問題を解かせ、自らつまづき箇所を認識・学習させるよう工夫した。対象者以外にも受講を希望する学生が多く、学生にもおおむね好評であった。 	

<p>応用力の涵養を狙ったプログラミング演習</p>	<p>2008年 9月 ～現在に至る</p>	<p>(授業科目：プログラミング演習II) 情報を学習する学生にとってプログラミング能力の向上は必須であるが、学生へ十分な演習を経験させるとともに、応用力を養わせるための工夫として、従来の授業実施方法を大きく変更した。詳細は以下の通り。 ・授業冒頭での小テスト実施： 前回内容の復習問題を短答式問題（選択式など）で重要事項を万遍なく含むように出題。プログラムの「要所」を確認し、学力の定着を確認する。 ・講義： 講義内容を整理した資料を作成・配布。サンプルもふんだんに掲載し、次週にも適した教材とした。学生には要点をマークするよう指導し、授業に集中させる効果も狙った。 ・演習： 実際にプログラムを作成させる。 ・宿題： 授業中の学習範囲について一層の実力定着をはかるとともに、プログラムを他の科目で活用できる水準まで応用力を高めるための宿題を課した。プログラムの学習にあわせて、文章理解、数学的計算、表計算ソフトウェアを利用した作図などの課題も含め、工学者に求められる能力の全体的向上を目指した。総合問題には、シミュレーション工学・情報セキュリティ・オペレーションズリサーチ・ソフトコンピューティング・非線形科学などの広範な話題を取り上げ、学生の興味も高めるよう工夫した。 ・補講： 学力不足の学生を対象に、補講をおこない、講義中の課題とは別の問題を解かせ、自らつまづき箇所を認識・学習させるよう工夫した。対象者以外にも受講を希望する学生が多く、学生にもおおむね好評であった。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p>		
<p>プレゼンテーション発表の手引き</p>	<p>2006年 4月 ～現在に至る</p>	<p>(科目名：ファーストイヤーセミナーII (主に)) 学部1年次から学生のプレゼンテーション能力を向上させるため、プレゼンテーション発表の注意事項を整理した教材 (MS PowerPointファイル。学生にも配布) を作成した。本資料は、所属学科内の複数の科目でも利用されている。</p>
<p>実験・実習科目の授業用教材</p>	<p>2007年 4月 ～現在に至る</p>	<p>実験・実習テーマ「Web制作」について、 ・教科書 (兼実習手順解説。全48ページ) ・サンプルコード (HTMLファイル、スタイルシートファイル) を作成した。</p>

プログラミング演習I・講義資料	2008年 4月 ～現在に至る	プログラミング演習Iの講義を実施するために必要なすべての教材： ・授業内容を網羅するとともにサンプルプログラムを含めた講義資料、 ・演習問題，解答例 ・小テスト問題 ・宿題 ・補習用教材 を作成した。			
実験系科目の授業用教材	2008年 4月 ～現在に至る	実験テーマ「動画像処理」について， ・教科書（兼実験手順解説．全30ページ） ・サンプルコード（C++言語プログラム，計500ステップ程度） を作成した。			
プログラミング演習II・講義資料	2008年 9月 ～現在に至る	プログラミング演習Iの講義を実施するために必要なすべての教材： ・授業内容を網羅するとともにサンプルプログラムを含めた講義資料， ・演習問題，解答例 ・小テスト問題 ・宿題 ・補習用教材 ・過程学習用問題（自習用教材） を作成した。			
コンピュータ科学・授業教材および講義資料	2012年 7月 ～2013年 1月				
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
電気学会技術報告 第 1273号「機械学習技術 の基礎と応用」	共著	2013年 1月			31-34頁

論文					
全体最良解更新状況に応じた探索特性調節機構をもたせた新型 Particle Swarm Optimizationモデル (査読付)	共著	2010年 4月	電気学会論文誌C 130(4)	増田和明, 栗原謙三	573--579頁
Dynamic Associative Memory by Using Chaos of a Simple Associative Memory Model with Euler's Finite Difference Scheme (査読付)	共著	2010年 8月	Proc. SICE Annual Conference 2010 (SICE 2010)	<u>Kazuaki Masuda</u> , Eitaro Aiyoshi	1444-1450頁
Hierarchical Planning Method for Product Supply based on Multi Objective Genetic Algorithm (査読付)	共著	2010年 9月	Proc. the 15th IEEE Int. Conf. on Emerging Technologies and Factory Automation (ETFA)	Kenzo Kurihara, Hirohito Maruyama, <u>Kazuaki Masuda</u>	CD-ROM (8 pages)頁
A Penalty Approach to Handle Inequality Constraints in Particle Swarm Optimization (査読付)	共著	2010年10月	Proc. IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC) 2010	<u>Kazuaki Masuda</u> , Kenzo Kurihara, Eitaro Aiyoshi	2520-2525頁
Determining the Control Parameter Value of Nonlinear Dynamical Systems to Generate Chaos (査読付)	共著	2010年12月	Proc. Joint 5th Int. Conf. Soft Computing and Intelligent Systems and 11th Int. Symp. Advanced Intelligent Systems (SCIS & ISIS 2010)	<u>Kazuaki Masuda</u> , Kenzo Kurihara	SU-C2-1 (Paper No.)頁

多品種同時競売のための最適価格決定問題と Particle Swarm Optimizationによる最適価格探索法 (査読付)	共著	2011年 2月	電気学会 電子・情報・システム部門誌 (論文誌 C) 131(2)	増田和明, 相吉英太郎	461-467頁
Product Supply Planning based on Hierarchical Approach (査読付)	共著	2011年 3月	Proc. the 9th Int. Conf. on Multinational Enterprises	Kenzo Kurihara, Hirohito Maruyama, Kazuaki Masuda.	CD-ROM (8 pages)頁
多目的Particle Swarm Optimizationに基づく制約条件付き大域的最適化手法 (査読付)	共著	2011年 5月	電気学会論文誌C 131(5)	増田和明, 栗原謙三	990-999頁
An Empirical Study on the Search Directions of Differential Evolution (査読付)	共著	2011年 6月	Proc. IEEE Congress on Evolutionary Congress (CEC) 2011,	Kazuaki Masuda, Hirofumi Yokota, Kenzo Kurihara	2550-2557頁
On the Memorization Accuracy of Autoassociative Memory Models (査読付)	共著	2011年 9月	Proc. SICE Annual Conference 2011 (SICE 2011),	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	530-536頁
A Novel Method for Solving Min-max Problems by Using a Modified Particle Swarm Optimization (査読付)	共著	2011年10月	Proc. IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC) 2011,	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara, Eitaro Aiyoshi	2113-2120頁
スカラー化と Particle Swarm Optimization を併用した簡便な進化型多目的最適化手法の設計 (査読付)	共著	2012年 1月	電気学会 電子・情報・システム部門誌 (論文誌 C) , 132(1)	増田和明, 原田和明, 栗原謙三	42-52頁

A Weighting Approach for Autoassociative Memories to Improve Accuracy in Memorization (査読付)	共著	2012年 6月	Proc. IEEE World Congress on Computational Intelligence (WCCI) 2012,	<u>Kazuaki Masuda</u> , Bumpei Fukui, Kenzo Kurihara	3021-3027頁
A Flexible Q-relearning Method to Accelerate Learning Under the Change of Environments by Reusing a Portion of Useful Policies (査読付)	共著	2012年 8月	Proc. SICE Annual Conference 2012 (SICE 2012),	Masanori Saito, <u>Kazuaki Masuda</u> , Kenzo Kurihara。	1223-1227頁
A Numerical Constrained Optimization Method via Searching for Saddle Points of a Lagrangian by Using Artificial Bee Colony (ABC) algorithm (査読付)	共著	2012年 8月	Proc. SICE Annual Conference 2012 (SICE 2012),	Kenta Ishikawa, <u>Kazuaki Masuda</u> , Kenzo Kurihara	1514-1519頁
A Weighting Approach for Autoassociative Memories to Maximize the Number of Correctly Stored Patterns (査読付)	共著	2012年 8月	Proc. SICE Annual Conference 2012 (SICE 2012),	<u>Kazuaki Masuda</u> , Bumpei Fukui, Kenzo Kurihara	1520-1524頁
An Interactive Method for Solving Optimization Problems with an Unknown Objective Function (査読付)	共著	2012年10月	Proc. IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC) 2012,	<u>Kazuaki Masuda</u> , Ayumi Shiga, Kenzo Kurihara, Nobuyuki Nishiuchi	370-377頁

A Multiple Optimal Solutions Search Method by Using a Particle Swarm Optimization Algorithm Utilizing the Distribution of Personal Bests (査読付)	共著	2013年 6月	Proc. IEEE Congress on Evolutionary Congress (CEC) 2013	<u>Kazuaki Masuda</u> , Kenta Ishikawa, Teruji Sekozawa, Kenzo Kurihara	1999-2006頁
A Method for Finding Stable-Unstable Bifurcation Points of Nonlinear Dynamical Systems by Using a Particle Swarm Optimization Algorithm (査読付)	単著	2013年 9月	Proc. SICE Annual Conference (SICE 2013)		554-559頁
その他					
市場原理のための基礎知識：最適化の理論と手法で接近する価格調整機構	共著	2010年 4月	電気学会 電子・情報・システム部門誌 (論文誌C) 130(4)	相吉英太郎, 増田和明	534-539頁
Particle Swarm Optimizationの探索挙動に関する実験的解析	共著	2010年 9月	平成23年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	横田裕史, 増田和明, 栗原謙三	61-66頁
Particle Swarm Optimizationを用いた制約条件付き最適化手法の多目的視点からの理解とその改良	共著	2010年 9月		平成22年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	474-482頁
連想記憶モデルのカオス特性とその動的連想記憶への応用	共著	2010年 9月	第20回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN 2010) 講演論文集	増田和明, 相吉英太郎	Paper ID 49頁

Differential Evolutionの探索ステップ幅調節機構を改良した大域的最適化手法	共著	2010年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2010講演論文集	横田裕史, 増田和明, 栗原謙三	2C4-1 (Paper No.)頁
k-means法における初期クラスター重心配置法の改善	共著	2010年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2010講演論文集	勝又大介, 増田和明, 栗原謙三	2C2-4 (Paper No.)頁
大域的最適化のための拡張Pattern Search法の提案	共著	2010年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2010講演論文集	高橋偉大, 増田和明, 栗原謙三	2C3-2 (Paper No.)頁
最大リアプノフ指数最大化に基づくカオス力学系の制御パラメータ選択法	共著	2010年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2010講演論文集	岩崎裕紀, 増田和明, 栗原謙三	2D2-1頁
Particle Swarm Optimizationとスカラー化手法を併用した多目的最適化問題のパレートフロンティア推定	共著	2011年 3月	平成23年度電気学会全国大会講演論文集3	増田和明, 原田和明, 栗原謙三	122-123頁
自己相関連想記憶モデルの記銘精度に関する基礎検討	共著	2011年 8月	電気学会 システム研究会資料	増田和明, 栗原謙三	ST-11-023 (Paper No.)頁
Particle Swarm Optimizationのパラメータ選択による探索挙動の定量的解析	共著	2011年11月	第54回自動制御連合講演会講演論文集	横田裕史, 増田和明, 栗原謙三	2E-203 (Paper No.)頁
Particle Swarm Optimizationを用いた連続ゲーム問題における安定Nash均衡解探索法	共著	2011年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2011講演論文集	神林賢, 増田和明, 栗原謙三	2C2-1 (Paper No.)頁
自己連想記憶の精度向上を目的とした追加記銘パターンの最適生成法	共著	2011年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2011講演論文集	福井文平, 増田和明, 栗原謙三	2B1-3 (Paper No.)頁

有用な既知の方策を部分的に再利用する矯正的Q-learning	共著	2011年12月	電気学会 システム研究会資料	齋藤雅矩, 増田和明, 栗原謙三	ST-11-026頁
A Constrained Global Optimization Method Based on Multi-Objective Particle Swarm Optimization	共著	2012年 1月	Electronics and Communications in Japan 95(1)	Kazuaki Masuda, Kenzo Kurihara	43-54頁
スカラー化手法とAnt Colony Optimizationを併用した多目的巡回セールスマン問題の解法	共著	2012年 3月	平成24年電気学会全国大会講演論文集 3	増田和明, 栗原謙三	60-61頁
自己相関連想記憶の記銘能力を高める重み付き記銘モデルとその反復的重み決定手法	共著	2012年 8月	第22回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN 2012) 講演論文集	増田和明, 栗原謙三	1A-1-2 (Paper No.) 頁
運転時の不確実性を考慮したエネルギー計画のための最適化ベンチマーク問題	共著	2012年 9月	平成24年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	相吉英太郎, 増田和明, 小林容子	332-336頁
Design of a simple evolutionary multiobjective optimization method based on the combined use of scalarization and particle swarm optimization	共著	2012年11月	Electronics and Communications in Japan 95(11)	Kazuaki Masuda, Kazuaki Harada, Kenzo Kurihara	1-13頁
群分割型粒子群最適化による複数の大域的最適解探索手法	共著	2012年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2012講演論文集	石川健太, 増田和明, 栗原謙三	70-75頁

自己相関連想記憶に対する重み付き・ピーク移動型記憶モデルの改良に関する基礎検討	共著	2012年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2012講演論文集	増田和明, 栗原謙三	408-413頁
進化戦略(1+1)-ESに対する可調整型短期間1/5規則実装法(査読付)	共著	2012年12月	電気学会 システム研究会資料	増田和明, 栗原謙三	ST-12-026 (Paper No.) 頁
Q-learningアルゴリズムに基づくForward-Backward型学習に関する基礎検討	共著	2013年 5月	電気学会 システム研究会資料	齋藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照治	ST-13-013 (Paper No.) 頁
Q-learningアルゴリズムに基づくForward-Backward学習に関する検討	共著	2013年 9月	平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	齋藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照治	394-399頁
自己相関連想記憶の最適記憶問題と進化計算アルゴリズムを用いた数値解法に関する予備的検討	単著	2013年 9月	第23回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN 2013) 講演論文集		328-332頁
進化計算アルゴリズムによる非線形力学系の不動点探索のための基礎検討	単著	2013年 9月	第23回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN 2013) 講演論文集		367-370頁
適応的群分化機構を備えたPSOによる複数解探索手法	共著	2013年 9月	平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	石川健太, 増田和明, 瀬古沢照治	581-586頁
フラクタル図形生成のための反復関数系推定法に関する基礎検討	共著	2013年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会2013講演論文集	六倉勇次, 石川健太, 増田和明	GS1-5 (Paper No.) 頁

過去の有用な知識を利用した適応型 Q-learning	共著	2013年11月	計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2013講演論文集	齋藤雅矩, 増田和明, 瀬古沢照治	GS2-8 (Paper No.)頁
実行可能化演算を伴う Particle Swarm Optimizationを用いた制約条件付き最適化手法	単著	2014年 3月	平成26年電気学会全国大会		
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2002年 4月～現在に至る		計測自動制御学会 (SICE) (国内学会) 会員			
2002年 4月～現在に至る		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 会員			
2005年 4月～現在に至る		個人研究 システム工学とその応用に関する研究 (最適化, 学習アルゴリズムを中心に)			
2005年 7月～現在に至る		IEEE(国際学会) 会員			
2005年 7月～現在に至る		計測自動制御学会 (SICE) (国内学会) 情報・システム部門 システム工学部会 運営委員 (2007/1～2008/12の間, 幹事)			
2005年 7月～現在に至る		電子情報通信学会 (IEICE) (国内学会) 会員			
2006年10月～現在に至る		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 論文委員			
2006年12月～現在に至る		電子情報通信学会 (IEICE) (国内学会) 論文査読委員			
2007年 1月～2010年12月		計測自動制御学会 (SICE) (国内学会) 情報・システム部門 運営委員			
2009年 1月～現在に至る		計測自動制御学会 (SICE) (国内学会) システム・情報部門 ニューラルネットワーク部会 運営委員 (2009/1～2010/12の間, 幹事)			
2009年 1月～2010年12月		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 産業応用部門 (D部門) 情報知能システムとその産業応用調査専門委員会 委員			
2010年 1月～2012年12月		計測自動制御学会 (SICE) (国内学会) 計測自動制御学会 システム・情報部門 先端ナチュラルコンピューティングとその応用調査研究会 委員			
2010年 4月～2012年 3月		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 電子・情報・システム部門 (C部門) 確率的最適化アルゴリズムの設計技術調査専門委員会 委員			
2010年 4月～2012年 3月		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 電子・情報・システム部門 (C部門) 実世界とエージェントシミュレーション協同研究委員会 委員			
2011年 1月～2012年12月		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 産業応用部門 (D部門) 情報知能システムの新展開とその産業応用調査専門委員会 委員			
2011年 1月～現在に至る		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 電子・情報・システム部門 (C部門) システム技術委員会 幹事			
2011年 4月～現在に至る		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 電子・情報・システム部門 (C部門) 編修委員会 編修委員 (2014/4～2015/3, 幹事)			
2011年 4月～2012年 3月		電気学会 (IEEJ) (国内学会) 電子・情報・システム部門 (C部門) 実応用を指向する機械学習技術調査専門委員会 委員			

2012年 4月～2014年 3月	電気学会 (IEEJ) (国内学会)電子・情報・システム部門 (C部門) 確率最適化アルゴリズムの適用技術調査専門委員会 委員
2012年 4月～2014年 3月	電気学会 (IEEJ) (国内学会)電子・情報・システム部門 (C部門) 技術シーズ創出に向けた機械学習協同研究委員会 委員
2012年 5月～現在に至る	電子情報通信学会 (IEICE) (国内学会)[Associate Editor] 基礎・境界ソサイエティ 英文論文誌編集委員会 編集委員
2013年 1月～現在に至る	電気学会 (IEEJ) (国内学会)産業応用部門 (D部門) 産業応用のためのシステム最適化とベンチマーク問題調査専門委員会 委員
2013年 3月～2013年 9月	計測自動制御学会 (SICE) (国内学会)[Associate Editor] SICE Annual Conference 2013 プログラム委員 (システム・情報分野)
2013年 4月～現在に至る	個人研究 2,000,000円 最適化理論から迫る連想記憶モデルのメカニズム解明と容量限界への挑戦 (JSPS科研費 若手研究 (B))
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 2,000,000円 「若手研究 (B)」最適化理論から迫る連想記憶モデルのメカニズム解明と容量限界への挑戦 (研究代表者)
2013年 4月～2013年 9月	第23回インテリジェント・システム・シンポジウム (FAN 2013) 実行委員会・プログラム委員会 委員
2013年 4月～現在に至る	進化計算学会(国内学会)会員
2013年 4月～現在に至る	電気学会 (IEEJ) (国内学会)[Associate Editor] 電子・情報・システム部門 (C部門) 論文委員会 幹事
2013年 7月～現在に至る	計測自動制御学会 (SICE) (国内学会)計測自動制御学会 システム・情報部門 ハイパーコンピューティクス調査研究会 委員
2014年 1月～現在に至る	計測自動制御学会 (SICE) (国内学会)情報・システム部門 運営委員
2014年 3月～2014年 9月	計測自動制御学会 (SICE) (国内学会)[Editor] SICE Annual Conference 2014 プログラム委員 (システム・情報分野)
2014年 4月～現在に至る	電気学会 (IEEJ) (国内学会)確率的最適化手法の理論的拡張と応用技術調査専門委員会 委員
2014年 4月～現在に至る	電気学会 (IEEJ) (国内学会)学習アルゴリズムの高度化を指向した機械学習技術協同研究委員会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 今井 崇雅	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
毎回の小テストの採用	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：コースワークI (2009年7月まで)、コースワークIII (2007年4月から現在まで)、コースワークVI (2008年9月から現在まで担当)、プログラミング演習I (2012年7月まで担当)、マルチメディア (2007年4月から現在まで)、ネットワーク工学 (ネット2009.4月から現在まで担当) 前回授業のポイントの再認識と、各学生の修得度確認と修得度向上を狙いとして、毎回授業開始時に5～10分程度の小テストを行っている。小テスト解答用紙回収直後に、解答と導出の考え方を講義することによる反復学習による学修効果も狙っている。	
輪講の実施	2007年 4月 1日 ～現在に至る	(授業科目：工学特別演習) (1) 学生による専門知識の主體的な学習方法、(2) 理解したことを他の学生に系統だてて説明する能力、(3) 分かりやすい発表方法、それぞれの修得を狙いとして輪講を行っている。テキストには、基礎的事項から記載している専門書を用い、必要に応じて、説明内容の補足を行うことで、正しい知識をわかりやすく把握、理解することにも配慮している。	
卒業研究・卒業制作ゼミ合宿の開催と指導	2007年 9月 1日 ～現在に至る	毎年授業時間外の夏休み期間に3日間、大学の研修施設における研究室所属の3年生及び4年生合同で卒業研究の中間発表と質疑応答を実施している。これにより3年生は早期に卒論への取り組み方及び内容を理解させている。また、4年生は卒業研究の現状認識とこれからの課題を後期に入る前に把握させ、後期の研究活動の計画的推進を促している。	
研究室配属学生への教員スケジュールの公開、学生による指導予約システムの採用	2007年10月 1日 ～現在に至る	(授業科目：卒業研究) 研究室配属学生が研究指導を受けやすい環境とすることを狙いとして、研究室教員のスケジュールを公開している。公開には汎用のスケジューラを用い、研究室のPCにより配属学生はいつでも確認可能である。加えて、スケジューラを用いた指導時間の予約も可能である。当然のことながら、予約がなくても可能な限り指導希望に応じている。	

文部科学省特色ある大学教育支援プログラム平成16-19年度事業「コアリッションによる工学教育の相乗的改革」活動報告会参加及び卒業研究指導への活用	2007年11月28日 ～現在に至る	(授業科目：卒業研究) 旧帝大を中心とした8大学による、科学技術創造立国を担う国際競争力ある人材の育成との課題への4年間の取り組み活動の報告会に参加し、今後の大学教育のあり方の指針となる多くの情報を入手した。また、237頁にわたって活動内容の詳細をまとめた資料も入手し、卒業研究指導をはじめとした教育に役立てている。例えば、卒業研究テーマとして就職後の業務に役立ちそうなテーマを立案させるなどして、本人のやる気を引き出すと共に大学での教育が実社会に出てから本人にも役立つようにすることにより、社会から期待されている大学の役割も最大限担えるように工夫している。
FD講演会「初年次教育における教育目標とそれを達成する方法論」(法政大学、藤田哲也)の聴講とFYSへの活用	2008年 3月 3日 ～現在に至る	(授業科目：ファーストイヤーセミナー) 初年次教育に関する法政大学での取り組みを把握の上、2009年度以降に担当する初年次教育(FYS)に活用している。(注：2008年度はFYSを担当していない)例えば、学生自身の気づきの重視、授業への参加と振り返りの促し、などを取り入れた授業を進めている。
平成19年度私立大学の授業改善白書(私立情報教育協会、2008年5月発行)の活用	2008年 5月 ～現在に至る	(授業科目：コースワークI、III、VI、プログラミング演習I、マルチメディア) 白書に記載されている授業の問題点を踏まえ、記載されている改善策を事業で活用している。例えば、授業シナリオの工夫、教材の簡素化と学生への要点メモの記載を促す施策などである。
学生による授業評価結果の活用	2009年 9月 ～現在に至る	(授業科目例：コースワークVI、マルチメディア) 平成20年度前期授業評価アンケートで学生からわかりやすとの評価を受けた「板書と視聴覚教材(パワーポイント図面やその他の教材のプロジェクタでの投射)を効果的に併用する方法」を後期の上記講義をはじめとした書く授業に取り入れるなど、授業内容をよりわかりやすくする工夫を重ねた。
授業科目「ネットワーク工学」の授業概要のネット配信	2010年 4月 1日 ～2013年 7月31日	授業科目「ネットワーク工学」の授業概要を記した資料を、大学のネット配信システムdot Campusを活用して毎回配付した。
授業科目「マルチメディア」の授業補助教材のネット配信	2010年 9月 1日 ～2013年 3月13日	授業科目「マルチメディア」の授業概要を記した資料を、大学のネット配信システムdot Campusを活用して毎回配付した。
私立大学教員の授業改善白書(平成22年度の調査結果、私立大学情報教育協会平成23年5月発行)の活用	2011年 9月21日 ～現在に至る	(授業科目：コースワークIII、VI、プログラミング演習I、マルチメディア、ネットワーク工学、工学基礎演習II) 白書に記載されている授業の問題点を踏まえ、記載されている改善策を事業で活用している。例えば、授業シナリオの工夫、小テストによる理解度の把握、対話型授業の導入などである。
私立大学教員の授業改善白書(平成25年度の調査結果、私立大学情報教育協会平成26年5月発行)の活用	2014年 6月 1日 ～現在に至る	(授業科目：マルチメディア、ネットワーク工学) 白書に記載されている授業改善のための情報通信技術活用例を参考に、授業と並行したネット上での学修支援策の検討を開始した。
2 作成した教科書、教材		

コースワークⅢ演習用資料の作成・配布	2007年 4月 1日 ～現在に至る	システム設計を行う上で必須の「問題解決の基礎能力」を高める工夫を施した教材を作成し、演習に活用している。
「マルチメディア」の講義内容のポイントを記した資料の作成・配布	2007年 9月30日 ～現在に至る	学生による講義のポイント理解度向上を狙いとして、毎回、授業ポイントを問題形式で記載したA4用紙1枚程度の資料を配布している。
コースワークⅥ講義用・配布用教材の作成・配布	2008年 9月 1日 ～現在に至る	システムデザインに必須の「問題解決能力」を高める工夫を施した演習教材を作成・配布して、活用している。
「ネットワーク工学」の講義内容のポイントを記した資料の作成・配布	2009年 4月13日 ～現在に至る	学生による講義のポイント理解度向上を狙いとして、毎回、授業ポイントを問題形式で記載したA4用紙1枚程度の資料を配布している。
教科書「マルチメディア」の作成（科目名「マルチメディア」での使用）	2013年 9月21日 ～現在に至る	2012年度までのマルチメディアでの授業内容をもとに、小テストにより把握した学生の理解度を勘案した教科書を作成し、活用している。
教科書「情報ネットワーク」の作成（科目名「ネットワーク工学」で使用）	2014年 3月31日 ～現在に至る	2012年度までのネットワーク工学での授業内容をもとに、小テストにより把握した学生の理解度を勘案した教科書を作成し、活用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
2008年度前期授業評価アンケート結果	2008年 9月 1日 ～現在に至る	（授業科目：コースワーク1、コースワークⅢ）担当教員の板書の仕方や視聴覚教材（スライド、OHP、VTR等）はわかりやすかったか、との質問に対し、平均値（約1/2）を上回る約2/3の学生から「強くそう思う」、「そう思う」、との回答を得た。
工学部平成20年度前期優秀講義賞受賞	2008年10月 8日 ～現在に至る	学生の意見調査を参考とした平成20年度前期優秀講義賞受賞を受賞した。
2010年度前期研究授業	2010年 5月31日 ～現在に至る	コースワークⅢを、研究授業として行った。学生の理解把握のため毎週演習テストを行っていること、学生との会話授業の中で、学生と共に考え理解していく、という講義形態は高く評価された。
2010年度前期授業アンケート結果	2010年 9月 1日 ～現在に至る	（授業科目：ネットワーク工学）授業到達目標の明示、明快な授業内容の説明、など明快な授業との回答が「とてもそう思う」、「ややそう思う」合計で83%の回答を得た。
2012年度前期授業アンケート結果	2012年 4月 1日 ～現在に至る	（授業科目：ネットワーク工学）欠席回数2回以下の学生が履修登録者全体の90%以上と高率であった。また、予習・復習時間30分以上の学生の履修充足度大の学生83%と高い評価であった。
2012年度後期授業アンケート結果	2012年 9月 1日 ～現在に至る	（授業科目：マルチメディア）欠席回数2回以下の学生が履修登録者全体の88%以上と高率であった。また、予習・復習時間30分以上の学生の履修充足度大の学生79%と高い評価であった。

2014年度前期授業アンケート結果	2014年 4月 1日	<p>(授業科目：ネットワーク工学) 出席率高(欠席回数4回以下)の学生が履修登録者全体の96%以上と高率であった。専用の教科書を使用しているため、授業内容との食い違いがなくよかったとの回答が多数寄せられており、独自テキスト作成の狙いの一つの達成を確認できた。</p> <p>(FYS) 欠席回数2回以下の学生が履修登録者全体の90%以上と高率であった。また、事前事後の課題を十分把握できた学生が90%以上と高率であった。</p> <p>(コースワークⅢ) 欠席回数2回以下の学生が履修登録者全体の90%以上と高率であった。また授業の到達目標を十分達成できたと感じる学生が3/4以上であった。今後、残りの1/4弱の学生への教育効果の更なる向上を図る工夫を提案した。2015年度に実施予定である。</p>
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5 その他		
FD講演会「立教大学の教育改善と大学教育開発・支援センター」(立教大学、今田昌子、2009年6月27日)の聴講と授業改善への活用	2007年 6月27日 ～現在に至る	立教大学でのFDへの取り組み情報を収集し、今後の授業改善への活用を図っている。例えば、FDが求められるようになった社会背景などの整理結果などの情報を、今後の授業改善の方向を考える上で役立てている。
共通教養系科目教育協議会主催講演会「FYS授業活性化へのヒント」(NHK研修センター 岩井正 2009年2月19日)の聴講と授業改善への活用	2009年 2月19日 ～現在に至る	NHKでのコミュニケーション研修における各種情報を収集の上、今後の授業改善への活用を図っている。
FD講演会「FDの現状と課題」の聴講と授業改善への活用	2009年11月 6日 ～現在に至る	
平成23年度国税専門官採用試験問題の作成	2010年10月 1日 ～2011年 8月31日	国税専門官採用試験試験専門委員として、平成23年度国税専門官採用試験問題を作成した。
情報システム創成学科教育委員としての活動	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日	学科教育委員として、学科所属学生の履修指導、科目担当者配置最適化、シラバス記載内容の改善など、学生の教育環境改善に向けた各種活動を行った。
平成24年度国税専門官採用試験問題の作成	2011年10月 1日 ～2012年 8月31日	国税専門官採用試験試験専門委員として、平成24年度国税専門官採用試験問題を作成した。
平成25年度国税専門官採用試験問題の作成	2012年10月 1日 ～2013年 8月31日	国税専門官採用試験試験専門委員として、平成25年度国税専門官採用試験問題を作成した。
学科主任としての学科カリキュラム改善に向けた取り組み	2013年 4月 1日 ～現在に至る	急激に進展する情報化社会において、社会が求める大学における情報教育の在り方につき、学科内に検討グループを設定し、改善のための原案を取りまとめた。
平成26年度国税専門官採用試験問題の作成	2013年10月 1日 ～2014年 8月31日	国税専門官採用試験試験専門委員として、平成26年度国税専門官採用試験問題を作成した。

平成27年度国税専門官採用試験問題の作成		2014年10月 1日 ～現在に至る	国税専門官採用試験試験専門委員として、平成27年度国税専門官採用試験問題を作成した。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
マルチメディア	単著	2013年 3月	(神奈川大学工学部情報システム創成学科 教材委員会)		
情報ネットワーク	単著	2014年 3月	(神奈川大学工学部情報システム創成学科 教材委員会)		
論文					
SFPを用いた双方向波長多重光無線	共著	2010年 9月	電子情報通信学会 2010年ソサイエティ大会講演論文集	今井崇雅、小川達也	B-10-54頁
高信頼MANETにおける所要通信半径の端末密度依存性	共著	2011年 3月	電子情報通信学会 2011年総合大会講演論文集	井手勇介、土屋卓大、今井崇雅	B-21-14頁
近接送受信器間高速光無線並列伝送に関する検討	共著	2013年 9月	電子情報通信学会 ソサイエティ大会講演論文集	牧村大輔、井手勇介、今井崇雅	B-10-24頁
送信器にレンズアレイを用いない高速2次元光無線通信に関する検討	共著	2013年 9月	電気学会 平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集	牧村大輔、井手勇介、今井崇雅	pp. 1873 - 1874頁
Q学習による完全グラフ上の経路学習におけるTTLと学習経路長の関係	共著	2014年 3月	電子情報通信学会 総合大会講演論文集	井手勇介、右田正夫、菊池光、今井崇雅	B-7-76頁

高速信号特性解析装置による有線および光無線伝送系評価	単著	2015年 3月	神奈川大学工学部報告(神奈川大学工学部)(53)		
その他					
近接2次元光無線における伝送容量の位置づけ依存性	共著	2014年 3月	電子情報通信学会東京支部学生会発表講演集 講演番号84	牧村大輔、井手勇介、今井崇雅	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1981年 8月～現在に至る		応用物理学会(国内学会)会員			
1983年 1月～現在に至る		電子情報通信学会(国内学会)会員			
1990年12月～現在に至る		IEEE(国内学会)会員			
1999年 7月～現在に至る		波長多重対応の海底光増幅中継伝送システムの開発			
2001年 5月～現在に至る		電子情報通信学会(国内学会)論文誌査読委員			
2007年 4月～現在に至る		個人研究 ブロードバンドネットワーク(含、アクセス系)			
2007年 4月～2014年 3月		(社) 日本工学教育協会 会員			
2007年 8月～現在に至る		超高速フォトニックネットワーク開発推進協議会 技術調査部会委員			
2007年11月～現在に至る		新世代ネットワーク推進フォーラム 研究開発戦略ワーキンググループメンバ			
2008年 4月～現在に至る		個人研究 高速光ワイヤレス			
2008年 6月～現在に至る		新世代ネットワーク推進フォーラム テストベッドネットワーク推進ワーキンググループメンバ			
2008年 7月～現在に至る		IEEE(国内学会)Globecom論文委員			
2009年 4月～現在に至る		個人研究 高精度端末位置検出システム			
2009年10月～2010年12月		学術的国際会議IEEE-Globecom 2010 論文委員会委員			
2009年12月～現在に至る		Optical Society of America(国際学会)会員			
2010年 4月～現在に至る		個人研究 高信頼ネットワーク設計法			
2010年10月～2011年 8月		平成23年度国税専門官採用試験 試験専門委員			
2011年 1月～2011年12月		学術的国際会議IEEE-Globecom 2011 論文委員会委員			
2011年 3月～現在に至る		IEEE(国内学会)Senior member			
2011年10月～2012年 8月		平成24年度国税専門官採用試験 試験専門委員			
2012年 1月～2012年12月		学術的国際会議IEEE-Globecom 2012 論文委員会委員			
2012年10月～2013年12月		学術的国際会議IEEE-Globecom 2013 論文委員会委員			
2012年10月～2013年 8月		平成25年度国税専門官採用試験 試験専門委員			
2013年10月～2014年 8月		平成26年度国税専門官採用試験 試験専門委員			
2013年11月～2014年12月		学術的国際会議IEEE-Globecom 2014 論文委員会委員			
2014年10月 1日～現在に至る		平成27年度国税専門官採用試験委員会 試験専門委員			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助教	氏名 井手 勇介	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ランダム グラフ ダイナミクスー確率論からみた複雑ネットワーク	共著	2011年12月	(産業図書)	リック・デュレット著：竹居正登，井手勇介，今野紀雄訳	
ランダム グラフ ダイナミクスー確率論からみた複雑ネットワークー	共著	2011年12月	(産業図書)	リック・デュレット著，竹居正登，井手勇介，今野紀雄共訳.	
応用数理ハンドブック	共著	2013年 9月	(朝倉書店)		

「応用数理ハンドブック」日本応用数理学会監修，執筆者225名，井手執筆箇所「スモールワールドネットワーク」（査読付）	共著	2013年10月	(朝倉書店)		246--247頁
横浜発 確率・統計入門	共著	2014年 9月	(産業図書)	今野紀雄，井手勇介，瀬川悦生，竹居正登，大塚一路	
論文					
Statistical properties of a generalized threshold network model (査読付)	共著	2010年 9月	Methodology and Computing in Applied Probability 12(3)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Naoki Masuda	361-366頁
Continuous-time quantum walks on the threshold network model	共著	2010年12月	Mathematical Structures in Computer Science 20(6)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno	1079-1090頁
Entanglement for discrete-time quantum walks on the line (査読付)	共著	2011年11月	Quantum Information and Computation 11(9 & 10)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Takuya Machida	0855-0866頁
Return probability of one-dimensional discrete-time quantum walks with final-time dependence (査読付)	共著	2011年11月	Quantum Information and Computation 11(9 & 10)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Takuya Machida, Etsuo Segawa	0761-0773頁
Symmetry and localization of quantum walk induced by extra link in cycles (査読付)	共著	2012年 4月	Physical Review A 85(4)	Xin-Ping Xu, <u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno	042327頁

Time averaged distribution of a discrete-time quantum walk on the path	共著	2012年10月	Quantum Information Processing 11(5)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Etsuo Segawa	1207-1218頁
Combinatorial and approximative analyses of the scaling law in spatially random division process (査読付)	共著	2013年 5月	Physica A 392	Yukio Hayashi, Takayuki Komaki, <u>Yusuke Ide</u> , Takuya Machida, Norio Konno	2212-2225頁
Localization of discrete time quantum walks on the glued trees (査読付)	共著	2014年 3月	Entropy 16(3)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Etsuo Segawa, Xin-Ping Xu	1501-1514頁
Analytical solutions for quantum walks on 1D chain with different shift operators (査読付)	共著	2014年 5月	Annals of Physics 344	Xin-Ping Xu, Xiao-Kun Zhang, <u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno	194-212頁
Local subgraph structure can cause localization in continuous-time quantum walk (査読付)	単著	2014年 6月	Accepted for publication in Yokohama Mathematical Journal		
Some basic properties of a rotor-router model with i. i. d. initial rotor-routers on the line (査読付)	共著	2014年 8月	Proceedings of SSS'13 The 45th International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Masato Takei	, 303-306頁
その他					

しきい値ネットワークモデルの構造とその上のランダムウォーク	単著	2010年 4月	数理生物学セミナー「第17回ダーウィンセミナー」(東京工業大学田町キャンパス)		
Continuous-time quantum walks on random networks	共著	2010年 6月	Black Forest Focus on Soft Matter 3, “Frontiers in Dynamics - from Random to Quantum Walks”, Poster session, p.5 (Hotel am Münster, Breisach, Germany)		
Continuous-time random/quantum walk on the threshold network model	単著	2010年 8月	Academic lecture (Suzhou University, China)		
Continuous-time random and quantum walks on the threshold network model	単著	2010年 9月	The 34th Conference on Stochastic Processes and Their Applications , Abstract, p. 106 (大阪, 千里ライフサイエンスセンター)		
しきい値モデルの固有値解析とその応用	単著	2010年12月	応用数理連携フォーラム第15回ワークショップ「複雑ネットワーク研究の最前線！若手研究者が語る数理解析の展望」(東北大学)		
高信頼MANETにおける所要通信半径の端末密度依存性	共著	2011年 3月	電子情報通信学会2011年総合大会B-21-14	井手勇介, 土屋卓大, 今井崇雅	

Time averaged distribution of a discrete-time quantum walk on the path	単著	2011年11月	International Workshop on Theoretical Aspects of the Discrete Time Quantum Walk (Instituto de Fisica Corpuscular, Valencia, Spain)		
マルチホップ通信を用いた効率的な被災者情報収集法の検討	共著	2012年 3月	電子情報通信学会2011年総合大会 B-20-19	井手勇介, 涌井雄太, 今井崇雅	
Time averaged probability of DTQWs on the Path with general coin	単著	2012年11月	Workshop of Quantum Dynamics and Quantum Walks (自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター)		
Time averaged distribution of discrete time quantum walks on the path	単著	2013年 1月	AMS special session on quantum walks and related topics (San Diego Convention Center, San Diego, US)		
近接送受信器間高速光無線並列伝送に関する検討	共著	2013年 9月	2013年電子情報通信学会ソサイエティ大会 B-10-24	牧村大輔, 井手勇介, 今井崇雅	
送信器にレンズアレイを用いない高速2次元光無線通信に関する検討	共著	2013年 9月	平成25年電気学会電子・情報・システム部門大会講演論文集 1873--1874	牧村大輔, 井手勇介, 今井崇雅	

Some basic properties of a rotor-router model with i.i.d. initial rotor-routers on the line	共著	2013年11月	Abstracts of SSS' 13 The 45th International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, pp.155-156 (琉球大学)	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Masato Takei.	
Q 学習による完全グラフ上の経路学習における TTL と学習経路長の関係	共著	2014年 3月	電子情報通信学会2014年総合大会, B-7-76	井手勇介, 右田正夫, 菊池光, 今井崇雅	
近接2次元光無線における伝送容量の位置ずれ依存性	共著	2014年 3月	電子情報通信学会東京支部学生会「研究発表会」, 講演番号84	牧村大輔, <u>井手勇介</u> , 今井崇雅	
Turing instability in Reaction-Diffusion models on complex networks	共著	2014年 5月	arXiv:1405.0642	<u>Yusuke Ide</u> , Hirofumi Izuhara, Takuya Machida	
Asymptotic analysis of the one-dimensional quantum walks by the Tsallis and Renyi entropies	共著	2014年12月	arXiv:1412.7338	<u>Yusuke Ide</u> , Norio Konno, Junji Shikata	
エージェント集団の運動に基づくしきい値ネットワークの生成	共著	2014年12月	第15回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会, 講演番号1C4-2	右田正夫, <u>井手勇介</u>	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2006年 4月～現在に至る		個人研究 ランダムなグラフの構造とその上の確率・量子過程の研究			
2008年10月～現在に至る		日本数学会(国内学会)会員			

2009年 1月～現在に至る	日本物理学会(国内学会)会員
2010年10月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)会員
2011年 4月～2014年 3月	国内共同研究 (日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究 (B))ランダムなグラフの構造とその上の確率・量子モデル (研究代表)
2011年 4月～2012年 3月	国際共同研究 (平和中島財団 2011 (平成23) 年度 外国人研究者等招致助成 (蘇州大学, 徐新平氏を招致))ランダムなグラフ上の連続時間量子ウォークの局在化に関する研究 (研究代表)
2011年10月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会)情報ネットワーク科学時限専門委員会 専門委員
2012年 8月～2012年 8月	その他 (研究集会の実施) (京都大学数理解析研究所) 京都大学数理解析研究所共同研究「量子ウォークとその周辺」 (研究副代表)
2013年 1月～2013年 1月	その他 (研究集会の実施) “AMS Special Session on Quantum Walks” at 2013 Joint Mathematics Meetings (co-organizer)

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
工学部情報システム創成学科	教授	藤岡 淳			
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
dotCampusを活用した授業の実践		2013年 4月 1日 ～現在に至る	dotCampusを活用し資料配布したことで授業の効率化をはかることができた。		
卒研生に対する論文指導		2013年 4月 1日 ～現在に至る	三年生には論文紹介，四年生には卒業論文の指導を行った。		
学生・教員間の双方向授業の実践		2013年 4月 1日 ～現在に至る	「コースワークI・IV」の授業では，グループディスカッション等の主体的な相互学修を取り込むことで，主体性，コミュニケーション能力を熟成させることができた。		
2 作成した教科書、教材					
「OSと言語処理系」の教材作成		2013年 4月 1日	独自の講義資料を作成し，配布した。		
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
2014年度前期「教育改善のための学生による授業アンケート」		2014年 4月 1日 ～2014年 8月31日	(授業科目：OSと言語処理系) 「この授業で良かったこと」として，「新しい視点・知識」が25.0%，「興味深い内容」が22.8%との評価を得た。		
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「(第2版)新情報通信概論」	共著	2011年 8月	(社団法人電気通信協会)	情報通信技術研究会編	

論文					
Hierarchical ID-Based Authenticated Key Exchange Resilient to Ephemeral Key Leakage (査読付)	共著	2011年 6月	IEICE Transactions on Fundamentals, E95-A(6)	Atsushi FUJIOKA, Koutarou SUZUKI, Kazuki YONEYAMA	1309-1317頁
Security of Sequential Multiple Encryption (査読付)	共著	2012年 1月	IEICE Transactions on Fundamentals, E95-A(1)	Atsushi FUJIOKA, Yoshiaki OKAMOTO, Taiichi SAITO	57-69頁
Strongly Secure Authenticated Key Exchange without NAXOS' Approach under Computational Diffie-Hellman Assumption (査読付)	共著	2012年 1月	IEICE Transactions on Fundamentals, E95-A(1)	Minkyu KIM, Atsushi FUJIOKA, Berkant USTAOGU	29-39頁
Strongly Secure Predicate-based Authenticated Key Exchange: Definition and Constructions (査読付)	共著	2012年 1月	IEICE Transactions on Fundamentals, E95-A(1)	Atsushi FUJIOKA, Koutarou SUZUKI, Kazuki YONEYAMA	40-56頁
クラウド時代における情報の保護と利活用の両立を実現する暗号技術	共著	2012年 8月	NTT 技術ジャーナル 24(8)	富士 仁, 藤岡 淳, 小林 鉄太郎, 千田 浩司, 星野 文学, 宮澤 俊之, 鈴木 幸太郎	18-21頁
Generic Construction of Strongly Secure Timed-Release Public-Key Encryption (査読付)	共著	2013年 1月	IEICE Transactions on Fundamentals, E96-A(1)	Atsushi FUJIOKA, Yoshiaki OKAMOTO, Taiichi SAITO	76-91頁

Characterization of Strongly Secure Authenticated Key Exchanges without NAXOS Technique (査読付)	単著	2013年 6月	IEICE Transactions on Fundamentals, E96-A(6)		1088-1099頁
id-eCK Secure ID-based Authenticated Key Exchange on Symmetric Pairing and its Extension to Asymmetric Case (査読付)	共著	2013年 6月	IEICE Transactions on Fundamentals, E96-A(6)	Atsushi FUJIOKA, Fumitaka HOSHINO, Tetsutaro KOBAYASHI, Koutarou SUZUKI, Berkant USTAAGLU, Kazuki YONEYAMA	1139-1155頁
直列型多重暗号の安全性とその応用	単著	2013年11月	神奈川大学工学研究所報(神奈川大学工学研究所) (36)		32-39頁
Non-malleable Multiple Public-Key Encryption (査読付)	共著	2014年 6月	IEICE Transactions on Fundamentals, E97-A(6)	Atsushi FUJIOKA, Eiichiro FUJISAKI, and Keita XAGAWA	1318-1334頁
Secure Hierarchical Identity-Based Identification without Random Oracles (査読付)	共著	2014年 6月	IEICE Transactions on Fundamentals, E97-A(6)	Atsushi FUJIOKA, Taiichi SAITO, and Keita XAGAWA	1307-1317頁
その他					
Predicate-based Authenticated Key Exchange Resilient to Ephemeral Key Leakage	共同	2010年 8月	WISA 2010(Jeju)	Koutarou SUZUKI, Kazuki YONEYAMA	
Security of Sequential Multiple Encryption	共同	2010年 8月	LatinCrypt 2011(Puebla)	Yoshiaki OKAMOTO, Taiichi SAITO	

Hierarchical ID-based Authenticated Key Exchange Resilient to Ephemeral Key Leakage	共同	2010年11月	IWSEC 2010 (Kobe)	Koutarou SUZUKI, Kazuki YONEYAMA	
Ephemeral key leakage resilient and efficient ID-AKES that can share identities, private and master keys	共同	2010年12月	Pairing 2010 (Yamanaka Hot Spring)	Koutarou SUZUKI, Berkant USTAOGU	
Designing Efficient Authenticated Key Exchange Resilient to Leakage of Ephemeral Secret	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	Koutarou SUZUKI	
Timed-Release公開鍵暗号の並列処理構成法	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	諸橋 玄武, 菊池 亮, 永井 彰	
公開鍵型 Timed-Release暗号の安全性考察及び効率的かつ一般的なPre-Open機能付き公開鍵型 Timed-Release暗号の構成	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	菊池 亮, 岡本 義明, 齊藤 泰一	
公開鍵型 Timed-Release暗号の比較評価	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	永井 彰, 菊池 亮, 諸橋 玄武, 吉田 麗生	
合成数位数双線型群を用いた署名長固定階層型IDベース署名	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	大島 孝裕, 齊藤 泰一	

格子問題, 符号理論, および素因数分解問題 に基づく強い認証鍵交 換: KEMからの一般構 成	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュ リティシンポジウム(小 倉)	米山 一樹, 草川 恵太, 鈴木 幸 太郎	
関数型暗号の応用: 検 証可能時限式暗号	共同	2011年 1月	2011年暗号と情報セキュ リティシンポジウム(小 倉)	星野 文学	
Designing Efficient Authenticated Key Exchange Resilient to Leakage of Ephemeral Secret Keys	共同	2011年 2月	CT-RSA 2011(San Francisco)	Koutarou SUZUKI	
Generic Construction of Strongly Secure Timed-Release Public-Key Encryption	共同	2011年 7月	ACISP 2011(Melbourne)	Yoshiaki OKAMOTO, Taiichi SAITO	
Characterization of Strongly Secure Authenticated Key Exchanges without NAXOS Technique	単独	2011年11月	IWSEC 2011(Tokyo)		
Strong Security Notions for Timed-Release Public-Key Encryption Revisited	共同	2011年11月	ICISC 2011(Seoul)	Ryo KIKUCHI, Yoshiaki OKAMOTO, Taiichi SAITO	
Sufficient Condition for Identity-based Authenticated Key Exchange Resilient to Leakage of Secret Keys	共同	2011年12月	ICISC 2011(Seoul)	Koutarou SUZUKI	

関数型暗号の応用: 鍵 隔離暗号の構成	共同	2012年 1月	2012年暗号と情報セキュ リティシンポジウム(金 沢)	星野 文学	
非対称ペアリングを用 いたIDベース認証鍵交 換方式におけるid-eCK 安全性の考察	共同	2012年 1月	2012年暗号と情報セキュ リティシンポジウム(金 沢)	鈴木 幸太郎, 米山 一樹, 小林 鉄太郎, 星野 文学	
Strongly Secure Authenticated Key Exchange: Factoring, Code, and Lattice-based Instantiations	共著	2012年 4月	Cryptology ePrint Archive: Report 2012/211	Atsushi FUJIOKA, Koutarou SUZUKI, Keita XAGAWA, Kazuki YONEYAMA	
Strongly Secure Authenticated Key Exchange from Factoring, Codes, and Lattices	共同	2012年 5月	PKC 2012(Darmstadt)	Koutarou SUZUKI, Keita XAGAWA, Kazuki YONEYAMA	
Security Enhancements by OR-Proof in Identity-Based Identification	共同	2012年 6月	ACNS 2012(Singapore)	Taiichi SAITO, Keita XAGAWA	
Sufficient Condition for Ephemeral Key-Leakage Resilient Tripartite Key Exchange	共同	2012年 7月	ACISP 2012(Wollongong)	Mark MANULIS, Koutarou SUZUKI, Berkant USTAOGLU	
暗号研究における最新 動向	単独	2012年 7月	工学部講演会(横浜)		
Secure Hierarchical Identity-Based Identification without Random Oracles	共同	2012年 9月	ISC 2012(Passau)	Taiichi SAITO, Keita XAGAWA	

Security Enhancement of Identity-Based Identification with Reversibility	共同	2012年10月	ICICS 2012(Hong Kong)	Taiichi SAITO, Keita XAGAWA	
Applicability of OR-Proof Techniques to Hierarchical Identity-Based Identification	共同	2012年12月	CANS 2012(Darmstadt)	Taiichi SAITO, Keita XAGAWA	
三者間認証鍵交換の一般的構成法	共同	2013年 1月	2013年暗号と情報セキュリティシンポジウム(京都)	Mark Manulis, 鈴木 幸太郎, Berkant Ustaoglu	
Practical and Post-Quantum Authenticated Key Exchange from One-Way Secure Key Encapsulation Mechanism	共同	2013年 5月	ASIACCS 2013(Hangzhou)	Koutarou SUZUKI, Keita XAGAWA, Kazuki YONEYAMA	
McEliece公開鍵暗号システムにおけるメッセージ再配送	共同	2014年 1月	2014年暗号と情報セキュリティシンポジウム(鹿児島)	野崎 隆之	
A Survey of McEliece Public-Key Cryptosystem Based on Moderate Density Parity-Check Codes	共同	2014年 3月	ワークショップ「耐量子暗号の最新研究動向」		
ネット時代の暗号技術	単独	2014年11月	2014年秋期 高校生向け公開講座(横浜)		
複数のパスワードを考慮したパスワード認証付き秘密分散法	共同	2015年 1月	2015年暗号と情報セキュリティシンポジウム(小倉)	野崎 隆之, 平間 大樹	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
1986年 2月～現在に至る		(社) 電子情報通信学会(国内学会)会員			
1991年 2月～現在に至る		国際暗号学会(国際学会)会員			

1994年 5月～現在に至る	(社) 情報処理学会(国内学会)会員
2000年 5月～2013年 3月	(社)電子情報通学会 情報セキュリティ研究専門委員会 委員
2010年 5月～現在に至る	(社) 電子情報通信学会(国内学会)ソサイエティ論文誌編集委員会 査読委員
2011年 5月～2011年11月	IEEE ISSR-11 プログラム委員会 プログラム委員
2013年 4月～現在に至る	個人研究 多重暗号の安全性および応用に関する研究 (研究代表者)
2013年 4月～現在に至る	個人研究 認証鍵交換の構成に関する研究 (研究代表者)
2014年 6月～現在に至る	(社) 電子情報通信学会(国内学会)情報セキュリティ研究専門委員会 委員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)
工学部情報システム創成学科	准教授	西澤 弘毅	
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
卒業論文の的一对一指導	2013年 4月 8日 ～現在に至る	卒業論文の完成を目標とする「特別研究1・2」では、履修している4年生の一人一人を個別に毎週30分ずつ面談している。個別に面談することによって、彼らは他のメンバーを気にすることなく素直に、行き詰っている箇所を告白することができる。ただし他の学生の前で発表する訓練も必要なので、半期で三回ほど、3年生も含めて研究室全体で研究報告をさせている。	
dotCampus を活用した時間外演習の実践	2013年 9月27日 ～現在に至る	情報システム創成学科の第1 Semesterに開講される「プログラミング演習1」は、授業時間外にいかによりプログラミングの練習をしたか、ということが技術の修得を左右する科目である。また、各回の講義内容をバラバラに理解するのではなく、組み合わせて大きなプログラムを作ることが重要である。そこでこの科目では、数あるゲームのマスターマインドのプログラムを作成することを目標とし、各回に出される時間外演習の課題を順々に取り組むことによって、その目標を達成できるようにした。時間外演習の解答は dotCampus によって提出させた。	
毎週のレポート出題	2013年 9月27日 ～現在に至る	情報システム創成学科の第4 Semester科目「アルゴリズムとデータ構造」において、毎週、レポート課題を出題し、翌週の講義の数日前に回収している。これにより、学生の苦手な箇所を早めに把握でき、必要に応じて翌週の講義で復習させることができる。	
予習レポートの実践	2014年 4月 9日 ～現在に至る	情報システム創成学科の第1 Semesterに開講される「コンピュータ科学」は、情報分野の基礎として重要であることに加え、大学での学修とは自主的に行うものである、ということを経験させる上で時期的にも重要な科目でもある。そこでこの科目では、毎週、「翌週の予習レポート」という課題を出題し、翌週の内容をテキストを見ながら解かせて講義の数日前に回収している。これにより、学生は予習をした上で講義に臨むことができるため、講義の理解度が上がるとともに、教員側も学生の苦手な箇所を講義前に把握できるため、それを反映した効果的な講義を行える。	

グループ学習を取り入れたFYSの実践	2014年 4月11日 ～現在に至る	FYS (First Year Seminar) の授業において、グループごとに分かれて独自の暗号方式を立案し、他のグループと解読し合うというゲーム形式の活動を取り入れた。また、その暗号方式や解読結果については個人によるレポート作成とグループによるプレゼンテーションの2段階構えによって発表することとした。このようにグループ学習の手法を取り入れることにより、FYSの目標であるレポート作成とプレゼンテーションについて意欲的に取り組めるようにするとともに、企画立案能力とコミュニケーション能力の向上も図った。
2 作成した教科書、教材		
「データ構造とアルゴリズム」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「プログラミング1～4」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「情報処理1～4」「情報処理A・B」「情報リテラシI・II」テキスト作成 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「情報数学A」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2012年 3月31日	
「計算論」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2011年 3月31日	
「情報数学B」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2010年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「オブジェクト指向設計」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「情報数学D」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日	
「経営統計入門」資料ウェブページ作成 (鳥取環境大学)	2012年 4月 1日 ～2014年 9月30日	
「アルゴリズムとデータ構造」の教材作成	2013年10月 1日 ～現在に至る	自身作成の教材を印刷したものを配付したり、pdfファイルをdotCampusで配付したりしている。
「工学特別演習II」の教材作成	2014年10月 1日 ～現在に至る	研究室3年生が履修するこの科目では、自身作成の教材を印刷して配付している。ウェブアプリケーションを何か一つ自分で仕様設計し、実際にプログラミングして実装するまでを効率的に半年で体験できるよう工夫している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		

公開講座 講師 (4回実施) (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2011年 3月31日				
加悦谷高校出前講義 講師 (1回実施) (鳥取環境大学)	2010年 4月 1日 ～2011年 3月31日				
鳥取県高校生科学セミナー情報分野 講師 (9回実施) (鳥取環境大学)	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日				
5 その他					
教務専門委員会 委員 (鳥取環境大学)	2009年 4月 1日 ～2012年 3月31日				
人間形成教育センター運営委員会 委員 (鳥取環境大学)	2011年 4月 1日 ～2013年 3月31日				
工学部情報システム創成学科教育委員	2014年 4月 1日 ～現在に至る				
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Modal μ -calculus on min-plus algebra N^∞ (査読付)	共著	2010年 8月	『コンピュータソフトウ ェア』 (日本ソフトウ ェア科学会) 27(3)	Dai Ikarashi, Yoshinori Tanabe, <u>Koki Nishizawa</u> and Masami Hagiya	99-113頁
Multi-valued modal fixed point logics for model checking (査 読付)	単著	2010年 8月	IEICE Transactions on Information and Systems, Vol.E93-D, No, 8		2036-2039頁
Relational and Multirelational Representation Theorems for Complete Idempotent Left Semirings (査読 付)	共著	2011年 5月	Relational and Algebraic Methods in Computer Science, LNCS 6663, Springer	Hitoshi Furusawa and <u>Koki Nishizawa</u>	148-163頁

Ideal Completion of Join Semilattices over T-Algebra (査読付)	共著	2012年 3月	Bulletin of Tottori University of Environmental Studies vol. 9 and 10	<u>Koki Nishizawa</u> and Hitoshi Furusawa	91-103頁
Relational Representation Theorem for Powerset Quantaes (査読付)	共著	2012年 9月	Lecture Notes in Computer Science 7560、Springer	<u>Koki Nishizawa</u> and Hitoshi Furusawa	207-218頁
A Sufficient Condition for Lifiable Adjunctions between Eilenberg-Moore Categories (査読付)	共著	2014年 4月	Lecture Notes in Computer Science 8428、Springer	<u>Koki Nishizawa</u> and Hitoshi Furusawa	261-276頁
その他					
鳥取-熊本間での講義ビデオ遠隔自動収録の試みについて	共著	2010年12月	研究報告教育学習支援情報システム (CLE), 情報処理学会. (2010-CLE-3 巻 1 号)	永井孝幸, 豊田寿行, 名古屋孝幸, <u>西澤弘毅</u> , 今井正和	1-8頁
日本海に面した海岸における海ごみの発生源に関する研究	共著	2011年 1月	第32回全国都市清掃研究・事例発表会講演論文集, 全国都市清掃会議	<u>西澤弘毅</u> , 田中勝	92-94頁
講義ビデオの活用に向けた講義音声の発話特徴分析	共著	2011年 5月	研究報告教育学習支援情報システム (CLE), 情報処理学会 (2011-CLE-4 巻 4 号)	永井孝幸, 豊田寿行, 名古屋孝幸, <u>西澤弘毅</u> , 今井正和	1-8頁
発信機の追跡による津波ごみの経路推定	共著	2012年 1月	第33回全国都市清掃研究・事例発表会 講演論文集、全国都市清掃会議.	<u>西澤弘毅</u> , 田中勝	93-95頁

Generated Waste and Recovery & Disposal of Solid Waste on the Sea of Japan Coast - Tracing Drifting Paths of Tsunami Debris	共著	2013年 2月	12th Expert Meeting on Solid Waste Management in Asia and Pacific Islands (SWAPI)	Masaru Tanaka, <u>Koki Nishizawa</u> , Makoto Okazaki, Tomomichi Kobayashi, Haruo Matsumura, Tetsuji Arata, Shin Sato and Yasuhiko Kagami	
III 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2002年 9月～現在に至る		日本ソフトウェア科学会(国内学会)会員			
2009年 3月～現在に至る		国際数理学協会(国内学会)会員			
2009年 4月～2012年 3月		その他の補助金・助成金(環境省)「循環型社会形成推進科学研究費補助金」日本海に面した海岸における海ごみの発生抑制と回収処理の促進に関する研究(研究分担者)			
2009年 4月～現在に至る		代数, 論理, 幾何と情報科学研究集会(ALGI)共同代表者			
2012年 4月～2014年 3月		その他の補助金・助成金(環境省)「環境研究総合推進費補助金」東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究(研究分担者)			
2012年 4月～現在に至る		科学研究費補助金 2,860,000円 「日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(B)」ストーン型双対性の保存について(研究代表者)			
2013年 3月～2013年 3月		理論計算機科学と圏論ワークショップ(CSCAT 2013) 幹事			
2014年 4月 1日～現在に至る		国際数理学協会 代議員			
2015年 3月～2015年 3月		理論計算機科学と圏論ワークショップ(CSCAT 2015) 幹事			

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助手	氏名 山口 幸	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Online learning of perceptron from noisy data:a case in which both student and teacher suffer from external noise	共著	2010年 9月	Journal of the Physical Society of Japan, 79(9), 094003	Tetsuya Uezu, Sachi Yamaguchi, Mika Yoshida, Mami Tomiyasu	

Sperm as a paternal investment:a model of sex allocation in sperm-digesting hermaphrodites	共著	2012年 2月	Theoretical Ecology, 5(1)	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Kota Sawada, Yasuhiro Nakashima, Satoshi Takahashi	99-103頁
Sexual systems and life history of barnacles:a theoretical perspective	共著	2012年 9月	Integrative and Comparative Biology, 52(3)	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Eric L. Charnov, Kota Sawada, Yoichi Yusa	
Small and poor females change sex:a theoretical and empirical study on protogynous sex change in a triggerfish under varying resource abundance	共著	2013年 1月	Journal of Theoretical Biology, 317(21)	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Satoko Seki, Kota Sawada, Satoshi Takahashi	189-191頁
Sexual systems and dwarf males in barnacles: integrating life history and sex allocation theories (査読付)	共著	2013年 3月	Journal of Theoretical Biology 320	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Yoichi Yusa, Kota Sawada, Satoshi Takahashi	1-9頁
Diverse, continuous, and plastic sexual systems in barnacles (査読付)	共著	2013年 4月	Integrative and Comparative Biology 53(4)	Yoichi Yusa, Mayuko Takemura, Kota Sawada, <u>Sachi Yamaguchi</u>	701-712頁
Dwarf males, large hermaphrodites, and females in marine species: a dynamic optimization model of sex allocation and growth (査読付)	共著	2013年 5月	Theoretical Population Biology 85	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Kota Sawada, Yoichi Yusa, Yoh Iwasa	49-57頁

Dwarf males and hermaphrodites can coexist in marine sedentary species if the opportunity to become a dwarf male is limited (査読付)	共著	2013年10月	Journal of Theoretical Biology 334	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Kota Sawada, Yoichi Yusa, Yoh Iwasa	101-108頁
The rediscovery of a rare pedunculate cirripede <i>Paralepas maculata</i> (Cirripedia: Heteralepadidae) on a sea urchin <i>Prionocidaris</i> sp. in Okinawa, southern Japan (査読付)	共著	2014年 1月	Marine Biodiversity Records 7	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Takuo Higashiji, Kota Sawada, Shigeyuki Yamato	1-5頁
Sexual system of a symbiotic pedunculate barnacle <i>Poecilasma kaempferi</i> (Cirripedia: Thoracica) (査読付)	共著	2014年 3月	Marine Biology Research 10(6)	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Sachi Yoshida, Atsushi Kaneko, Kota Sawada, Keiko Yasuda, Yoichi Yusa	635-640頁
Evolution of sex determination and sexually dimorphic larval sizes in parasitic barnacles (査読付)	共著	2014年 4月	Journal of Theoretical Biology 347	<u>Sachi Yamaguchi</u> , Jens T Hoeg, Yoh Iwasa	7-16頁
その他					

Life history and sexuality pattern in barnacles:a theoretical perspective	共著	2012年 1月	The Society for Integrative and Comparative Biology Annual Meeting 2012 Charleston SC, USA, Abstract Book,	Sachi Yamaguchi, Kota Sawada, Yoichi Yusa	202頁
雌雄性の進化ゲーム：性配分、生活史、個体群動態	共著	2012年 9月	第22回日本数理生物学会、講演要旨集	山口幸、遊佐陽一、澤田紘太、巖佐庸	113頁
III 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2004年10月～現在に至る	日本物理学会 会員				
2004年10月～現在に至る	日本生態学会 会員				
2004年10月～現在に至る	日本生態学会(国内学会)会員				
2005年 4月～現在に至る	日本動物行動学会 会員				
2005年 4月～現在に至る	日本動物行動学会(国内学会)会員				
2005年 4月～現在に至る	日本数理生物学会 会員				
2005年 4月～現在に至る	日本数理生物学会(国内学会)会員				
2008年 4月～現在に至る	日本学術振興会特別研究員 (DC2, PD) 平成20-21年度1200千円 (海洋生物の性配分と性表現に関する数理モデル)				
2010年 4月～現在に至る	日本学術振興会特別研究員 (PD) 平成22-24年度2800千円 (海洋動物における同時的雌雄同体と性転換をつなぐ数理モデル)				
2014年 4月～2015年 2月	その他の補助金・助成金 (公益財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成) 600,000円 海洋生物の性表現多様性の進化に関する理論的研究とその実証 (研究代表者)				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助手	氏名 野崎 隆之	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Analysis of Error Floors of Non-Binary LDPC Codes over MBIOS Channel	共著	2011年11月	IEICE Trans. on Fundamentals, Vol. E94-A, No. 11	T.Nozaki, K.Kasai and K.Sakaniwa	2144-2152頁
Analysis of Stopping Constellation Distribution for Irregular Non-binary LDPC Code Ensemble	共著	2011年11月	IEICE Trans. on Fundamentals, Vol. E94-A, No. 11	T.Nozaki, K.Kasai and K.Sakaniwa	2153-2160頁

Analysis of Error Floors of Non-binary LDPC Codes over BEC	共著	2012年 1月	IEICE Trans. on Fundamentals, Vol. E95-A, No. 1	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	381-390頁
Analytical Solution of Covariance Evolution for Irregular LDPC Codes	共著	2012年 7月	IEEE Trans. on Inform. Theory, Vol. 58, No. 7	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	4770-4780頁
Analysis of Error Floors for Non-binary LDPC Codes over General Linear Group through q-ary Memoryless Symmetric Channels (査読付)	共著	2012年12月	IEICE Trans. on Fundamentals, Vol. E95-A, No. 12, pp. 2113-2121, Dec. 2012	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	
Weight Distribution for Non-binary Cluster LDPC Code Ensemble (査読付)	共著	2013年12月	IEICE Trans. on Fundamentals (12)	T. Nozaki, M. Maehara, K. Kasai, and K. Sakaniwa	2382-2390頁
Message Passing Decoder with Decoding on Zigzag Cycles for Non-binary LDPC Codes (査読付)	共著	2014年 4月	IEICE Trans on Fundamentals E97-A(4)	Takayuki Nozaki, Kenta Kasai, Kohichi Sakaniwa	975-984頁
その他					
Error Floors of Non-binary LDPC Codes (査読付)	共著	2010年 6月	Proc. IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT 2010)	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	

Analysis of Error Floors of Non-binary LDPC Codes over MBIOS Channel	共著	2010年 9月	電子情報通信学会技術研究報告、Vol.110、No. 205、IT2010-36、多賀城、宮城	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	13-18頁
Analysis of Error Floors of Non-binary LDPC Codes over q-ary Discrete Memoryless Symmetric Channel	共著	2010年12月	第33回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2010) 予稿集、松代、長野	T. Nozaki, K. Kawai and K. Sakaniwa	13-18頁
Analysis of Stopping Constellation Distribution for Irregular Non-binary LDPC Code Ensemble	共著	2010年12月	第33回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2010) 予稿集、松代、長野	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	7-12頁
Monotonicity of Error Floors for Non-binary LDPC Codes over AWGN Channels	共著	2011年 3月	電子情報通信学会総合大会講演論文集、東京	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	p. 139頁
Analysis of Error Floors of Non-binary LDPC Codes over MBIOS Channel (査読付)	共著	2011年 6月	Proc. IEEE International Conference on Communications (ICC 2011)	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	1106-1110頁
Analysis of Stopping Constellation Distribution for Irregular Non-binary LDPC Code Ensemble (査読付)	共著	2011年 7月	Proc. IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT 2011)	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	

Optimization Method to Lower Error Floors for Generalized Non-binary LDPC Codes over Non-binary Input Memoryless Symmetric Channels	共著	2012年 3月	電子情報通信学会総合大会講演論文集、岡山	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	p. 156頁
Message Passing Decoder with Maximum A Posteriori Decoding on Zigzag Cycles for Non-binary LDPC	共著	2012年 6月	第33回情報ストレージ研究数進機構 技術報告会、東京	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	
Analysis of Error Floors of Generalized Non-binary LDPC Codes over q-ary Memoryless Symmetric Channels (査読付)	共著	2012年 7月	Proc. IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT 2012)	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	2351-2355頁
Spatially-Coupled Binary MacKay-Neal Codes for Channels with Non-Binary Inputs and Affine Subspace Outputs (査読付)	共著	2012年 7月	Proc. IEEE International Symposium Information Theory (ISIT 2012)	K. Kasai, T. Nozaki and K. Sakaniwa	468-472頁
LDPC符号とその復号法	単著	2012年 9月	誤り訂正符合のワークショップ、2012、草津、群馬		

Message Passing Algorithm with MAP Decoding on Zigzag Cycles for Non-binary LDPC Codes	共著	2012年 9月	電子情報通信学会技術研究報告、Vol. 112, No. 215, IT2012-44草津、群馬	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	75-80頁
Density Evolution for Non-binary LDPC Codes over Galois Field	共著	2012年11月	第34回情報ストレージ研究推進機構 技術報告会、湯河原	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	
Stability Condition for Non-binary LDPC Codes over Galois Field	共著	2012年12月	第35回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2012) 予稿集、別府、大分	T. Nozaki, K. Kasai, and K. Sakaniwa	
Weight Distributions for Non-Binary Cluster LDPC Codes	共著	2012年12月	第35回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2012) 予稿集、別府、大分	M. Maehara, T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	
多元符号と情報理論の応用—SITA奨励賞受賞研究からの展望—第一部「多元LDPC符号の性能解析」	単著	2012年12月	第35回情報理論とその応用シンポジウム (SITA2012) ワークショップ、別府、大分		
Message Passing Algorithm with MAP Decoding on Zigzag Cycles for Non-binary LDPC Codes (査読付)	共著	2013年 7月	Proc. of IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT2013)	T. Nozaki, K. Kasai and K. Sakaniwa	2825-2829頁
Weight Distribution for Non-binary Cluster LDPC Code Ensemble	共著	2013年 7月	Proc. IEEE International Symposium on Information Theory (ISIT2013)	T. Nozaki, M. Maehara, K. Kasai and K. Sakaniwa	2830-2835頁

Triangular 符号に基づく噴水符号	単著	2013年 9月	信学技報 (228)		31-36頁
McEliece 公開鍵暗号システムにおけるメッセージ再配送	共著	2014年 1月	第 31 回 暗号と情報セキュリティシンポジウム (SCIS2014) 予稿集	野崎隆之, 藤岡淳	
A Survey of McEliece Public-Key Cryptosystem Based on Moderate Density Parity-Check Codes	共著	2014年 3月		Takayuki Nozaki, Atsushi Fujioka	
ブロック対角化による LDPC符号の符号化法	単著	2014年 9月	電子情報通信学会技術報告 114(224)		43-48頁
Fountain Codes Based on Zigzag Decodable Coding (査読付)	単著	2014年10月	Proc. in International Symposium on Information Theory and its Applications (ISITA2014)		274-278頁
LDPC 符号に対するブロック対角化による符号化の計算量	単著	2014年12月	第 37 回 情報理論とその応用シンポジウム (SITA2014) 予稿集		
複数のパスワードを考慮したパスワード認証付き秘密分散法	共著	2015年 1月	第32 回暗号と情報セキュリティシンポジウム (SCIS2015) 予稿集	◎野崎隆之, 平間大樹, 藤岡淳	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2009年 9月～現在に至る	IEEE(国際学会) 会員				
2009年10月～現在に至る	電子情報通信学会(国内学会) 会員				
2010年 3月～現在に至る	平成22-24年度 日本学術振興会 特別研究員 (DC1, PD) 2100千円 (有限長のLDPC符号の復号誤り確率の解析)				
2010年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 2,100,000円 「科学研究費補助金(特別研究員)」有限長の LDPC 符号の復号誤り確率の解析 (研究代表者)				

2012年 3月～現在に至る	誤り訂正符号のワークショップ 実行委員
2012年 4月～現在に至る	IEEE Member
2012年 4月～現在に至る	電子情報通信学会 正員
2013年 4月～2015年 3月	科学研究費補助金 2,430,000円 「工学」長寿命・高信頼なフラッシュメモリスステムの構成 (研究代表者)
2014年 4月～現在に至る	ACM(国際学会)会員
2014年 5月～現在に至る	情報処理学会(国内学会)会員

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 教授	氏名 秋吉 政徳	大学院における研究指導 担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
博士後期課程副査		2005年 4月 1日 ～2012年 3月31日	大阪大学大学院情報科学研究科在籍学生11名の博士審査委員		
海外大学集中講義		2011年 4月18日 ～2011年 4月29日	Albert-Ludwigs-Universitat Freiburg (フライブルク, ドイツ) にて 、「Collective Intelligence and IT」の集中講義(90分講義を14回)と試験(90分)、成績評価		
博士後期課程副査		2012年 4月 1日 ～2014年 3月31日	大阪大学大学院情報科学研究科在籍学生 1名の博士審査外部委員		
博士後期課程副査		2014年 4月 1日 ～現在に至る	大阪大学大学院情報科学研究科単位取得退学学生 1名の博士審査外部委員 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科在籍学生 1名の博士審査外部委員		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					

論文					
マルチエージェントシミュレーション開発環境におけるモデル記述誤り検出支援方式	共著	2010年 4月	電気学会論文誌C, Vol.130, No. 4, pp. 622-628	板倉宏太, 畠山剛, 秋吉政徳, 薦田憲久	
定性・定量融合シミュレーションにおける寄与度の確率分布特性を用いた事業リスク要因発見方式	共著	2010年 4月	電気学会論文誌C, Vol.130, No. 4, pp. 589-597	鮫島正樹, 根来啓輔, 光國光七郎, 秋吉政徳	
利用者評価を用いたBBS検索オンライン処理における応答性能改善方式	共著	2010年12月	電気学会論文誌C, Vol.130, No. 12, pp. 2286-2290	森田善洸, 秋吉政徳, 薦田憲久	
BBS-based Information Management System in Chinese Offshore Software Development Company	共著	2011年 1月	International Journal of Systems Applications, Engineering & Development, Vol.5, Issue 1, pp.50-57	Li Cai, Zuoqi Wang, Masanori Akiyoshi, and Norihisa Komoda	
ビジネス文書からのメタデータ抽出のためのルール自動生成技術	共著	2011年 8月	電気学会論文誌C, Vol.131, No. 8, pp. 1502-1511	松本俊子, 大峽光晴, 小野山隆, 秋吉政徳	
業務情報周知のための業務遂行状況に応じた情報提示要否の判別方式	共著	2011年10月	電気学会論文誌C, Vol.131, No. 10, pp. 1819-1827	松本俊子, 小野山隆, 秋吉政徳	

A Knowledge Cards Classification Method with Conversion Loss Correction for Incomplete Translation Dictionary	共著	2011年11月	IEEE Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.6, No.6, pp.566-570	Li Cai, Zuoqi Wang, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	
FAQ作成支援のための分類用閾値自動調節機構を組み入れた問い合わせメール分類方式	共著	2011年11月	電気学会論文誌C, Vol.131, No.11, pp.1925-1932	津田祐輝, <u>秋吉政徳</u> , 鮫島正樹, 岡宏憲	
分枝限定法における近似限定操作を用いたリスク対策案組合せ高速立案方式	共著	2011年12月	電気学会論文誌C, Vol.131, No.12, pp.2204-2211	今奈良祐紀, 瓦谷佳祐, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 佐々木良一	
分類サンプル文書から作成したカテゴリ辞書を用いたアンケート分類方式	共著	2012年 2月	電気学会論文誌C, Vol.132, No.2, pp.269-274	濱田啓一, <u>秋吉政徳</u> , 鮫島正樹, 大磯洋明	
定性・定量融合モデルにおける影響伝播の双方向合成による目標達成シナリオ高速作成方式	共著	2012年 2月	電気学会論文誌C, Vol.132, No.2, pp.214-222	鮫島正樹, 森田善洸, <u>秋吉政徳</u>	
類似度のピーク特性を用いた新規バグスレッドに対する関連スレッド群特定方式	共著	2012年 2月	電気学会論文誌C, Vol.132, No.2, pp.231-237	今奈良祐紀, 板倉宏太, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	
問い合わせ事例からの特徴単語群自動生成によるFAQ対応メール検出方式	共著	2012年 4月	電気学会論文誌C, Vol.132, No.4, pp.609-614	作道勇樹, <u>秋吉政徳</u> , 鮫島正樹, 岡宏憲	
リスク対策案組合せ合意のための相互作用分析による調整パラメータ提示方式	共著	2012年 6月	電気学会論文誌C, Vol.132, No.6, pp.1041-1049	中島大輔, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 佐々木良一	

An Interpolation Method of Uncertain Landmarks for Improving Accuracy of Simulation on Qualitative and Quantitative Hybrid Model	共著	2013年 1月	IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering, Vol.8, No.1, pp.56-62	Masaki Samejima and <u>Masanori Akiyoshi</u>	
リスク表現の自動獲得によるプロジェクト計画書からのリスク検出方式	共著	2013年 4月	電気学会論文誌C, Vol.133, No.4, pp.899-905	今奈良祐紀, 中島大輔, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 森久 博	
依存関係による重み付け類似度を用いたバグスレッド階層の再構成方式	共著	2013年 4月	電気学会論文誌C, Vol.133, No.4, pp.883-890	今奈良祐紀, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	
重回帰分析のダミー変数選択によるWebシステムの業務別異常検知方式	共著	2013年 7月	電気学会論文誌C, Vol.133, No.7, pp.1410-1416	津田祐輝, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 薦田憲久, 吉野松樹	
A Predictive Search Method for FAQ-based Question Answering System	共著	2013年10月	International Journal of Artificial Intelligence, Vol. 11, No. A13, pp.103-114	Masaki Samejima, Yuichi Saito, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Hironori Oka	
Reference Operation Generation Method on Project Manager Skill-up Simulator (査読付)	共著	2013年12月	Series of Communications in Computer and Information Science, Vol.415, pp.297-307	Keiichi Hamada, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Masaki Samejima	
An Anomaly Detection Method on Web-based System by Trend Analysis with Autoregressive Model (査読付)	共著	2014年 6月	電気学会論文誌C, Vol.134, No.6, pp.814-820	Masaki Samejima, Hiroshi Ohno, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Norihisa Komoda, and Matsuki Yoshino	

その他					
A Knowledge Cards Classification Method with Conversion Loss Correction for Incomplete Translation Dictionary	共著	2010年 4月	The 3rd Japan-China Joint Symposium on Information Systems (JCIS2010),	Li Cai, Zuoqi Wang, Masanori Akiyoshi, and Norihisa Komoda	85-88頁
A User's Inquiry E-mail Matching Method to Pre-Described FAQs with Specific Words-Weighted Jaccard Coefficient	共著	2010年 4月	The 3rd Japan-China Joint Symposium on Information Systems (JCIS2010),	Yuki Sakumichi, Masahiro Kenmotsu, Koichi Iwai, and Masanori Akiyoshi	65-68頁
An Accuracy Improvement Method of Simulation on Qualitative and Quantitative Hybrid Model with Uncertain Landmarks	共著	2010年 4月	The 3rd Japan-China Joint Symposium on Information Systems (JCIS2010),	Masaki Samejima, Masanori Akiyoshi, and Norihisa Komoda	11-16頁
FAQ作成支援のための分類用辞書自動生成による問い合わせメール分類方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-31,	岩井康一, 飯田薫, 岡宏憲, 秋吉政徳	55-59頁
ヘルプデスク支援のための問い合わせメールに対する類似回答事例検索方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-30,	村尾和俊, 飯田薫, 岡宏憲, 秋吉政徳	49-53頁
ユーザ例示からの2次検索を用いた異種Webサイトからの情報抽出方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-28,	三井祐希, 伊藤恭介, 岡宏憲, 秋吉政徳	41-44頁

ユーザ例示に基づく補完処理を用いた異種Webサイトからの情報抽出方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-27	島田惇哉, 伊藤恭介, 岡宏憲, 秋吉政徳	37-40頁
リスク対策案組合せ合意のための相互作用分析による調整パラメータ提示方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-39,	中島大輔, 鮫島正樹, 秋吉政徳, 佐々木良一	87-92頁
問い合わせメール自動応答のためのFAQ対応メール検出方式	共著	2010年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-29	板倉宏太, 劔持真弘, 岡宏憲, 秋吉政徳	45-48頁
定性・定量融合シミュレータを用いた社会的合意形成支援	共著	2010年 5月	情報処理学会 研究報告, コンピュータセキュリティ (CSEC), Vol. 2010-CSEC-49 (No. 10,)	鮫島正樹, 秋吉政徳, 佐々木良一	1-6頁
A Generation Method of Table-style Data from Web Retrieval Results based on a User's Instantiated Example	共著	2010年 7月	The 8th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2010)	Junya Shimada, Kyosuke Itoh, Hironori Oka, and Masanori Akiyoshi	283-286頁
A Help Desk Support System with Filtering and Reusing E-mails	共著	2010年 7月	The 8th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2010),	Koichi Iwai, Kaoru Iida, Masanori Akiyoshi, and Norihisa Komoda	321-325頁
A Prioritization Method of Adjusting Parameters for Making Consensus on Combination of Risk-Reducing Plans by Mutual Effect Analysis	共著	2010年 7月	The 8th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2010),	Daisuke Nakajima, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 326-330頁

An Incremental Classification Method Of Questionnaire Data Using Self-regulated Judgment Parameters	共著	2010年 7月	The 8th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2010)	Yuki Mitsui, Kaoru Iida, Masanori Akiyoshi, and Norihisa Komoda	305-308頁
High-Speed Decision Method of Combination of Risk-reducing Plans using Branch and Bound	共著	2010年 7月	The 8th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2010),	Keisuke Kawaratani, Kota Itakura, Masaki Samejima, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 379-383頁
A Classification Method of Inquiry E-mails for Describing FAQ with Self-configured Class Dictionary	共著	2010年 9月	Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence 2010 (DCAI 10),	Koichi Iwai, Kaoru Iida, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 35-43頁
An Identification Method of Inquiry E-mails to the Matching FAQ for Automatic Question Answering	共著	2010年 9月	Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence 2010 (DCAI 10),	Kota Itakura, Masahiro Kenmotsu, Hironori Oka, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 213-219頁
Evaluation of BBS-based Information Management System in Chinese Offshore Software Development Company	共著	2010年 9月	Int. Conf. of the Institute for Environment, Engineering, Economics and Applied Mathematics 2010 (IEEEM 2010),	Li Cai, Zuoqi Wang, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 580-582頁

Information Extraction From Heterogeneous Web Sites Using Additional Search of Related Contents Based on a User's Instantiated Examples	共著	2010年 9月	Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence 2010 (DCAI 10),	Yuki Mitsui, Hironori Oka, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komod	pp. 593-600頁
Information Extraction from Heterogeneous Web Sites Using Clue Complement Process Based on a User's Instantiated Examp1	共著	2010年 9月	Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence 2010 (DCAI 10),	Junya Shimada, Hironori Oka, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komod	pp. 585-592頁
ユーザ例示に基づく異種Webサイトからの情報抽出方式	共著	2010年 9月	平成22年電気学会 電子・情報・システム部門大会, TC15-4,	島田惇哉, 津田祐輝, 秋吉政徳, 岡 宏憲	pp. 552-555頁
分枝限定法における近似限定操作を用いたリスク対策案組合せ高速立案方式	共著	2010年 9月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-72,	中島大輔, 瓦谷佳祐, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 125-129頁
A Consensus Support System for Deciding a Combination of Risk-reducing Plans under Uncertain Parameters	共著	2010年10月	2010 IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2010),	Kota Itakura, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Ryoichi Sasaki	pp. 2083-2087頁
A Consensus Support System for Deciding a Combination of Risk-reducing Plans under Uncertain Parameters	共著	2010年10月	2010 IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2010),	Kota Itakura, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Ryoichi Sasaki	pp. 2083-2087頁

Social Consensus Making Support System by Qualitative and Quantitative Hybrid Simulation	共著	2010年10月	2010 IEEE Int. Conf. on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2010),	Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Norihisa Komoda, and Ryoichi Sasaki	pp. 896-901頁
FAQ作成支援のための分類用閾値の自動調節機構を組み入れた問い合わせメール分類方式	共著	2010年11月	平成22年電気関係学会関西支部連合大会,	津田祐輝, 飯田 薫, 岡 宏憲, <u>秋吉政徳</u>	pp. 366-370頁
アンケート分類のための代表語含有度判定閾値の自動獲得方式	共著	2010年11月	電気学会 情報システム研究会, IS-10-77,	濱田啓一, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 19-23頁
プロジェクトマネージャ育成のためのペトリネットを用いたプロジェクト動作モデルの提案	共著	2010年11月	平成22年電気関係学会関西支部連合大会,	岩井康一, <u>秋吉政徳</u> , 薦田憲久	pp. 682-685頁
リスク対策案組合せ決定問題におけるパラメータ間の相反性にもとづく高速解法	共著	2010年11月	平成22年電気関係学会関西支部連合大会,	今奈良祐紀, 瓦谷佳祐, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 686-691頁
A Classification Method of Inquiry e-Mails for Describing FAQ with Automatic Setting Mechanism of Judgment Thresholds	共著	2011年 1月	The 1st Japan-Cambodia Joint Symposium on Information Systems and Communication Technology (JCAICT2011),	Yuki Tsuda, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Norihisa Komoda, and Hironori Oka	pp. 45-49頁
High-speed Solver of Combinatorial Problem of Risk-reducing Plans by Approximately Bounding on Branch and Bound	共著	2011年 1月	The 1st Japan-Cambodia Joint Symposium on Information Systems and Communication Technology (JCAICT2011),	Daisuke Nakajima, Keisuke Kawaratani, Masaki Samejima, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 39-43頁

サービスエンジニアリングの動向	単著	2011年 2月	電子情報通信学会 ソフトウェアインタプライズモデリング研究会 (SWIM) , Vol.110, No.427,		pp. 29-31頁
省エネと快適性を考慮したオフィス環境シミュレーションエージェントの検討	共著	2011年 3月	平成23年電気学会全国大会, 3-1001, 第3分冊	佐藤勝紀, 鮫島正樹, 秋吉政徳	p. 142頁
A Detection System of Dependent Relationships among Bug Report Threads	共著	2011年 4月	The 4th Japan-China Joint Symposium on Information Systems(JCIS2011),	Yuuki Imanara, Kota Itakura, Masaki Samejima, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 65-68頁
Evaluation of Knowledge Cards Classification Method with Translation Dictionary	共著	2011年 4月	The 4th Japan-China Joint Symposium on Information Systems(JCIS2011),	Xiaopeng Liu, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Norihisa Komoda, Li Cai, and Zuoqi Wang	pp. 61-64頁
Concept-based Clustering for Open-sourced Software (OSS) Development Forum Threads	共著	2011年 5月	The 7th Int. Conf. on Web Information Systems and Technologies (WEBIST 2011),	Jonathan Jason C. King Li, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Masaki Samejima, and Norihisa Komoda	pp. 690-695頁
FAQ作成支援のための分類用閾値の自動調節機構を組み入れた問い合わせメール分類方式	共著	2011年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-53,	津田祐輝, 秋吉政徳, 鮫島正樹, 岡 宏憲	pp. 91-96頁
依存関係による重み付け類似度を用いたバグスレッド階層の再構成方式	共著	2011年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-56,	今奈良祐紀, 鮫島正樹, 秋吉政徳	pp. 109-114頁

問い合わせ事例からの 特徴単語群自動生成に よるFAQ対応メール検 出方式	共著	2011年 5月	電気学会 情報システム 研究会, IS-11-52,	作道勇樹, <u>秋吉政徳</u> , 鮫島正樹 , 岡 宏憲	pp. 87-90頁
業務情報周知および活 用を実現するビジネス レコメンデーション技 術	共著	2011年 5月	電気学会 情報システム 研究会, IS-11-41,	松本俊子, 小野山 隆, <u>秋吉政徳</u>	pp. 47-52頁
A Detection Method of FAQ Matching Inquiry Emails by Automatic Generation of Characteristic Word Groups on Past Inquiry E-mails	共著	2011年 7月	The 9th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2011),	Yuki Sakumichi, Masanori <u>Akiyoshi</u> , <u>Masaki Samejima</u> , and Hironori Oka	pp. 53-56頁
A High-speed Generation of Goal-oriented Scenarios using Combination of Bidirectional Propagation on Qualitative and Quantitative Hybrid Model	共著	2011年 7月	The 9th IEEE Int. Conf. on Industrial Informatics (INDIN 2011),	Masaki Samejima, Yoshihiro Morita, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 57-62頁
A Situation-dependen t Scenario Generation Framework for Project Management Skill-up Simulator	共著	2011年 7月	The 6th Int. Conf. on Software and Data Technologies (ICSOFT2011), pp. 408-412	Koichi Iwai, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Masaki Samejima, and Hiroshi Morihisa	
An Identification Method of Related Group Threads for a Recent Bug Thread by Peak Characteristics of Similarities	共著	2011年 7月	The 6th Int. Conf. on Software and Data Technologies (ICSOFT2011),	Yuuki Imanara, Kota Itakura, Masaki Samejima, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 179-184頁

ユーザ例示の項目名と類似表現の単語間距離を用いた異種構造Webサイトからの情報抽出方式	共著	2011年 9月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-064,	中島大輔, 三井祐希, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 27-32頁
重要語共起率モデルを用いた不完全問合せに対するFAQ提示方式	共著	2011年 9月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-063,	村尾和俊, 齋藤裕一, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 岡 宏憲	pp. 21-25頁
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおけるシナリオ生成のためのルール群決定方式	共著	2011年10月	成23年電気関係学会関西支部連合大会, 30P1-28,	田口明義, 岩井康一, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 399-400頁
ドメイン辞書を用いた中国語と日本語が混在する知識カードの分類方式	共著	2011年11月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-89,	蔡 立, 劉 曉鵬, 王 作, <u>秋吉政徳</u> , 薦田憲久	pp. 69-73頁
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける学習目標からのシナリオ生成方式	共著	2011年11月	第4回横幹連合コンファレンス, 1E3-1	岩井康一, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	
リスク表現を用いたプロジェクト計画書に対するチェックリスト判定方式	共著	2011年11月	平成23年電気関係学会関西支部連合大会, 30P1-33,	中島大輔, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 409-410頁
独立成分分析を用いたWebシステムにおけるリソース使用状況の業務別分離方式	共著	2011年11月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-92,	津田祐輝, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u> , 吉野松樹	pp. 85-89頁
類似度のピーク特性を用いた新規バグスレッドに対する関連スレッド群特定方式	共著	2011年11月	電気学会 情報システム研究会, IS-11-88	今奈良祐紀, 板倉宏太, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 63-68頁

An Information Extraction Method from Different Structural Web Sites by Word Distances between a User Instantiated Label and Similar Entity	共著	2011年12月	IEEE Int. Workshop on Data Mining for Service (DMS2011),	Daisuke Nakajima, Yuki Mitsui, Masaki Samejima, and <u>Masanori Akiyoshi</u>	pp. 1177-1182頁
A Classification Method of Knowledge Cards in Japanese and Chinese by using Domain-specific Dictionary	共著	2012年 3月	The 5th Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence (DCAI 2012),	Xiaopeng Liu, Li Cai, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 453-460頁
A Predictive Search Method of FAQ Corresponding to a User's Incomplete Inquiry by Statistical Model of Important Words Co-occurrence	共著	2012年 3月	The 5th Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence (DCAI 2012),	Masaki Samejima, Yuichi Saito, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Hironori Oka	pp. 9-16頁
Multi-agent Bidding Mechanism with Contract Log Learning Functionality	共著	2012年 3月	The 5th Int. Symposium on Distributed Computing and Artificial Intelligence (DCAI 2012),	Kazuhiro Abe, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 213-220頁
オフィスにおける省エネと快適性を考慮した空調機運転スケジュール作成システム	共著	2012年 3月	平成24年電気学会全国大会, 3-089, 第3分冊	佐藤勝紀, 鮫島正樹, 秋吉政徳	p. 129頁

プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける強化学習に基づく規範オペレーション作成方式	共著	2012年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-05,	濱田啓一, 秋吉政徳, 鮫島正樹	pp. 25-29頁
プロジェクトリスク管理のための計画書における手がかり語を用いた欠落情報推定方式	共著	2012年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-03,	宮地亮介, 鮫島正樹, 秋吉政徳, 森久 博	pp. 13-18頁
問題解決型学習を目指したプロジェクトマネージャ育成シミュレータ環境	共著	2012年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-04,	秋吉政徳, 鮫島正樹, 森久 博	pp. 19-23頁
自己回帰モデルの構造変化検定を用いたWebシステムの異常検知方式	共著	2012年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-01,	大野宇宙, 鮫島正樹, 秋吉政徳, 吉野松樹	pp. 1-5頁
重回帰分析のダミー変数選択によるWebシステムの業務別異常検知方式	共著	2012年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-02,	津田祐輝, Nguyen Ngoc Tan, 鮫島正樹, 秋吉政徳, 吉野松樹	pp. 7-11頁
A Classification Method of Inquiry E-mails for Describing FAQ with Automatic Setting Mechanism of Judgment Threshold Values	共著	2012年 6月	2012 Int. Conf. on Enterprise Information Systems (ICEIS 2012), Vol. 3,	Yuki Tsuda, Masanori Akiyoshi, Masaki Samejima, and Hironori Oka	pp. 199-205頁
A Classification Method of Open-ended Questionnaires using Category-based Dictionary from Sampled Documents	共著	2012年 6月	2012 Int. Conf. on Enterprise Information Systems (ICEIS 2012), Vol. 3, pp. 193-198	Keiichi Hamada, Masanori Akiyoshi, Masaki Samejima, and Hironori Oka	

プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける学習者オペレーションの問題個所に関する質問生成方式	共著	2012年 6月	2012年度人工知能学会全国大会 (第26回) (JSAI2012), 2L1-R-12-3	本庄智也, 秋吉政徳, 鮫島正樹	
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける強化学習を用いた規範オペレーション作成方式	共著	2012年 6月	2012年度人工知能学会全国大会 (第26回) (JSAI2012), 3L1-R-12-4	秋吉政徳, 鮫島正樹	
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける強化学習を用いた規範オペレーション作成方式	共著	2012年 6月	2012年度人工知能学会全国大会 (第26回) (JSAI2012), 3L1-R-12-4	秋吉政徳, 鮫島正樹	
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける決定木を用いた学習者オペレーション改善方式	共著	2012年 6月	2012年度人工知能学会全国大会 (第26回) (JSAI2012), 2L1-R-12-2	大月みなみ, 秋吉政徳, 鮫島正樹	
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける学習者オペレーションの改善点抽出方式	共著	2012年 7月	人工知能学会 第65回 先進的学習科学と工学研究会(SIG-ALST), SIG-ALST-B201-04,	大月みなみ, 秋吉政徳, 鮫島正樹	pp. 19-24頁
リスク表現の自動獲得によるプロジェクト計画書からのリスク検出方式	共著	2012年 7月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-28,	今奈良祐紀, 中島大輔, 鮫島正樹, 秋吉政徳, 森久 博	pp. 31-36頁
見出し語を用いたウェブページから取扱説明書へのリンク自動生成手法	共著	2012年 7月	電気学会 情報システム研究会, IS-12-29,	作道勇樹, 前川卓也, 秋吉政徳, 岡 宏憲	pp. 37-40頁

A Scheduling Method of Air Conditioner Operation using Workers Daily Action Plan towards Energy Saving and Comfort at Office	共著	2012年 9月	2012 IEEE Int. Conf. on Emerging Technology & Factory Automation (ETFA 2012) (in CD ROM)	Katsunori Sato, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	
オフィスにおける省エネと快適性のための人員行動予定を用いた空調機運転スケジュール作成方法	共著	2012年 9月	平成24年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, PS5-7,	佐藤勝紀, 鮫島正樹, <u>秋吉政徳</u>	pp. 1863-1864頁
プロジェクトマネジメントに求められる新たな様相	単著	2012年 9月	平成24年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, TC8-1, pp. 344-347		
プロジェクトマネージャ育成シミュレータにおける学習者オペレーション改善箇所特定方式	共著	2012年 9月	平成24年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, TC8-4,	大月みなみ, <u>秋吉政徳</u> , 鮫島正樹	pp. 357-362頁
A Generation Method of Reference Operation using Reinforcement Learning on Project Manager Skill-up Simulator	共著	2012年10月	The 4th Int. Conf. on Knowledge Management & Information Sharing (KMIS 2012),	Keiichi Hamada, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Masaki Samejima	pp. 15-20頁
A Project Manager Skill-up Simulator Towards Problem Solving-based Learning	共著	2012年10月	The 4th Int. Conf. on Knowledge Management & Information Sharing (KMIS 2012),	<u>Masanori Akiyoshi</u> , Masaki Samejima, and Norihisa Komoda	pp. 190-195頁

An Anomaly Detection Method for Individual Service on Web-based System by Selection of Dummy Variables in Multiple Regression	共著	2012年10月	2012 IEEE Int. Conf. on Systems, Man & Cybernetics (SMC 2012),	Yuki Tsuda, Ngoc Tan Nguyen, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , Norihisa Komoda and Matsuki Yoshino	pp. 1873-1877頁
An Identification Method of Lacking Information by Clue Phrases in Plan Document for Project Risk Management	共著	2012年10月	2012 IEEE Int. Conf. on Systems, Man & Cybernetics (SMC 2012),	Ryosuke Miyaji, Daisuke Nakajima, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Hiroshi Morihisa	pp. 1240-1244頁
An Identification Method of Risks in Project Plan Document by Automatic Acquisition of Risk Expression	共著	2012年10月	2012 IEEE Int. Conf. on Systems, Man & Cybernetics (SMC 2012),	Yuuki Imanara, Daisuke Nakajima, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Hiroshi Morihisa	pp. 1235-1239頁
An Improvement Method of User Operations using Decision Tree on Project Manager Skill-up Simulator	共著	2012年10月	The 4th Int. Conf. on Knowledge Management & Information Sharing (KMIS 2012),	Minami Otsuki, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Masaki Samejima	pp. 158-163頁
Agent-based Learning Framework for Enhancing the Study on Logical Thinking of Business Management	共著	2012年12月	The 1st Asian Conf. on Information Systems (ACIS 2012),		pp. 249-250頁

An Anomaly Detection Method on Web-based System by Certification of Structural Change on Autoregressive Model	共著	2012年12月	The 1st Asian Conf. on Information Systems (ACIS 2012),	Hiroshi Oono, Masaki Samejima, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Norihisa Komoda	pp. 86-90頁
English Words Learning Environment for University Students of Science and Technology by Using a Push-based e-Learning System	共著	2012年12月	The 1st Asian Conf. on Information Systems(ACIS 2012),	Shimpei Matsumoto, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Tomoko Kashima	pp. 291-292頁
学習内容の定着を促進する学習者適応型教育クラウドサービス	共著	2013年 3月	電気学会 情報システム研究会, IS-13-04,	<u>秋吉政徳</u> , 松本慎平, 荒木直樹	pp. 15-18頁
携帯情報端末とPC端末による相乗効果を活用した学習者適応型教育クラウドサービス	共著	2013年 4月	サービス学会第1回国内大会講演論文集,	<u>秋吉政徳</u> , 松本慎平, 荒木直樹	pp. 374-376頁
学習内容の定着を促進する教育クラウドサービス	共著	2013年 6月	2013年度人工知能学会全国大会 (第27回) (JSAI2013), 3MS-0S-07d-5	<u>秋吉政徳</u> , 松本慎平, 荒木直樹	
経営分析を学習するためのケース生成方式	共著	2013年 6月	電気学会 情報システム研究会, IS-13-033, pp. 57-58	川口英俊, <u>秋吉政徳</u> , 青木真吾	
辞書構築及び関心領域設定インタフェースの開発による電子メール文書閲覧支援	共著	2013年 6月	2013年度人工知能学会全国大会 (第27回) (JSAI2013), 1F5-3in	松本慎平, 不動雄樹, <u>秋吉政徳</u>	

An Estimation Framework for a User Learning Curve on Web-based Interface using Eye Tracking Equipment	単著	2013年 7月	nt. Conf. on Human-Computer Interaction 2013 partI, pp.159-165		
Development of Push-Based English Words Learning System by Using E-Mail Service	共著	2013年 7月	Int. Conf. on Human-Computer Interaction 2013 partII, pp.444-453	Shimpei Matsumoto, <u>Masanori Akiyoshi</u> , and Tomoko Kashima	
利用者個別対応型学習サービスのための学習教材の自動配信基盤の構築	共著	2013年 7月	2013 IEEE SMC Hiroshima Chapter Young Researcher's Workshop, pp.123-124	栗栖大輝, 松本慎平, 秋吉政徳, 荒木直樹	
電子文書の効率管理のためのWebインタフェースの開発	共著	2013年 7月	2013 IEEE SMC Hiroshima Chapter Young Researcher's Workshop, pp.119-122	不動雄樹, 松本慎平, 秋吉政徳	
プロジェクトシミュレータを用いた学習環境における学習コンテンツ検証方式	単著	2013年 9月	平成25年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, TC3-1, pp.159-160		
英単語学習教材の適応配信手法の提案	共著	2013年10月	平成25 年度電気・情報関連学会中国支部連合大会, pp.323-324	栗栖大輝, 松本慎平, 秋吉政徳, 荒木直樹	
質問回答型Web 掲示板における利用者評価を用いたランキングのための評価支援システムの開発	共著	2013年10月	平成25 年度電気・情報関連学会中国支部連合大会, pp.252-253	不動直樹, 松本慎平, 秋吉政徳	

クチコミ掲示板に対する利用者評価を用いたリランキングの精度検証	共著	2013年11月	第14回 IEEE 広島支部学生シンポジウム (HISS), pp. 304-305	不動直樹, 松本慎平, 秋吉政徳	
ブッシュ型学習支援システムの適応型教材配信手法実装に向けての考察	共著	2013年11月	第14回IEEE 広島支部学生シンポジウム (HISS), pp. 329-330	栗栖大輝, 松本慎平, 秋吉政徳, 荒木直樹	
学習者適応型教育クラウドサービス-実現に向けての機能構成-	共著	2013年11月	電気学会 情報システム研究会, IS-13-080, pp. 99-102	廣瀬裕基, 秋吉政徳, 松本慎平, 荒木直樹	
マルチエージェントを用いた事業分析シミュレータの構築	共著	2014年 3月	情報処理学会第76回全国大会, 2-551-552	川口英俊, 秋吉政徳	
英単語Push配信学習の持続可能性の観点からの評価	共著	2014年 3月	教育情報 システム学会 中国支部学生研究発表会 (in CD-ROM)	栗栖大輝, 松本慎平, 秋吉政徳, 荒木直樹	
確率推論を用いた学習コンテンツ配信制御方式	共著	2014年 5月	電気学会 情報システム研究会, IS-14-009, pp. 99-102	田中麻斗, 岡本明伸, 寺西大, 秋吉政徳	
Evaluating an Automatic Adaptive Delivery Method of English Words Learning Contents for University Students in Science and Technology	共著	2014年 6月	Int. Conf. on Human-Computer Interaction 2014 PartI	Shimpei Matsumoto, Taiki Kurisu, Tomoko Kashima, Masanori Akiyoshi	pp. 510-520頁
Preliminary Study of Relation Induction between HTML Tag Set and User Experience	共著	2014年 6月	Int. Conf. on Human-Computer Interaction 2014 PartIII	Azusa Nakano, Asato Tanaka, Masanori Akiyoshi	pp. 49-56頁

プロジェクト・マネジメントにおける人材育成への情報・システム技術の展開	単著	2014年 6月	システム/制御/情報学会誌 58(6)		pp. 245-250頁
看護師チームの成長を促す組織学習フレームワークの構築	共著	2014年11月	第34回医療情報学連合大会 (11月8日発表予定)	秋吉政徳, 真嶋由貴恵	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月	内容				
2010年10月～2011年 3月	企業からの受託研究 (三菱電機)500,000円 業務処理システムにおける資源利用効率化アルゴリズムの研究				
2011年 4月～2013年 3月	科学研究費補助金 1,300,000円 「挑戦的萌芽研究」シナリオ創発によるプロジェクトマネージャ向け論理的思考学習システム構築への挑戦 (研究代表者)				
2011年10月～2012年 3月	企業からの受託研究 (三菱電機)500,000円 業務処理システムにおける資源利用効率化アルゴリズムの研究				
2012年 8月～2013年 3月	企業からの受託研究 (三菱電機)500,000円 プロジェクト管理技術に関する研究				
2013年 4月～現在に至る	科学研究費補助金 4,030,000円 「基盤研究 (C)」論理的思考環境とPBL実践環境の相互作用による組織学習フレームワークの研究 (研究代表者)				
2013年10月～2014年 3月	企業からの受託研究 (三菱電機)500,000円 プロジェクト管理技術に関する研究				
2014年 8月～2015年 3月	企業からの受託研究 (三菱電機)500,000円 プロジェクト管理技術に関する研究				

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助教	氏名 熊谷 亘	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
A characterization of extended monotone metrics	共著	2011年 1月	Linear Algebra and its Applications 434(1)		224-231頁

Quantum Hypothesis Testing for Gaussian States: Quantum Analogues of χ^2 , t , and F-Tests 5.	共著	2013年 3月	Communications in Mathematical Physics 318(2)	Masahito Hyashi	535-574頁
Second Order Asymptotics for Random Number Generation	共著	2013年 7月	2013 IEEE International Symposium on Information Theory Proceedings	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	1506-1510頁
Statistical and Information Theoretic Analysis for Optimal Local and Global Quantum Operations	単著	2013年 8月			
Entanglement Concentration is Irreversible	共著	2013年 9月	Physics Review Letters 111(13)	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	13047頁
その他					
量子ガウス状態族に対する量子仮説検定	共著	2011年 2月	第25回量子情報技術研究会、仙台	熊谷亘, 林正人	
量子ガウス状態族に対する量子仮説検定	共著	2011年11月	第25回量子情報技術研究会、豊中	熊谷亘、林正人	
エンタングルメント抽出の非可逆性	共著	2012年 5月	第26回量子情報技術研究会、福井	熊谷亘, 林正人	

Quantum hypothesis testing for quantum Gaussian states	共著	2012年 7月	The 2nd Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting, Tsukuba	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	233-234頁
Irreversibility of Entanglement Concentration for Pure State	共著	2012年 8月	12th Asia Quantum Information Science Conference, Suzhou, China	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	46-47頁
Irreversibility of Entanglement Concentration for Pure State	共著	2012年 9月	Japan-Singapore Workshop on Multi-user Quantum Networks, Singapore	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	
Optimal Min-Max Tests for Quantum Hypothesis Testing Problems on Gaussian States	単著	2012年11月	RIMS研究集会「量子論における統計的推」		68-76頁
Quantum hypothesis testing for quantum Gaussian states	共著	2013年 9月	Bernoulli Society Satellite Meeting to the ISI World Statistics Congress 2013, Tokyo		
エンタングルメント抽出および希釈の2次漸近論	共著	2013年12月	第35回情報理論とその応用シンポジウム、大分	Wataru Kumagai, Masahito Hayashi	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2011年 6月～現在に至る		統計学会(国内学会) 会員			
2014年 3月～現在に至る		国内共同研究 (名古屋大学) 乱数変換の漸近理論			
2014年 4月～現在に至る		人工知能学会(国内学会) 会員			

2014年 4月～現在に至る

国内共同研究（名古屋大学）ランキング情報を用いた凸最適化（研究分担者）

教育研究等環境

専任教員の教育・研究業績

所属 工学部情報システム創成学科	職名 特別助教	氏名 桑野 一成	大学院における研究指導 担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育方法の実践例					
なし					
2 作成した教科書、教材					
なし					
3 教育上の能力に関する大学等の評価					
なし					
4 実務の経験を有する者についての特記事項					
なし					
5 その他					
なし					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
なし					
論文					
Properties And Examples of Unified Scalarizing Functions for Sets	共著	2010年 4月	京都大学数理解析研究所 講究録 1685	Y. Sonda, I. Kuwano, T. Tanaka	259-269頁
Unified Scalarization for Sets in Set-Valued Optimization	共著	2010年 4月	京都大学数理解析研究所 講究録 1685	I. Kuwano, T. Tanaka, S. Yamada	270-280. 頁

Cone-semicontinuity of set-valued maps by analogy with real-valued	共著	2010年12月	semicontinuityNihonkai Mathematical Journal・Yokohama Publishers. 21	Y. Sonda, I. Kuwano, T. Tanaka	91-103頁
Inherited Properties of Nonlinear Scalarizing Functions for Set-Valued Maps	共著	2010年12月	Proceedings of the 6th International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis・Yokohama Publishers	I. Kuwano, T. Tanaka, S. Yamada	161-177頁
Unified scalarization and set-valued Ky Fan minimax inequality	共著	2010年12月	Journal of Nonlinear and Convex Analysis・Yokohama Publishers SCI 11	I. Kuwano T. Tanaka S. Yamada	513-525頁
Existence Theorems for Saddle Points of Set-Valued Maps via Nonlinear Scalarization Methods	共著	2011年 8月	京都大学数理解析研究所講究録 1755	I. Kuwano, T. Tanaka, S. Yamada	210-218頁
Study on Scalarization Methods for Sets in Optimization Theory (博士論文)	単著	2012年 3月	新潟大学大学院自然科学研究科		
Continuity of cone-convex functions	共著	2012年12月	Optimization Letters・Springer, SCI. 6	I. Kuwano, T. Tanaka	1847-1853頁
Minimax Theorems for Set-Valued Maps	共著	2013年 1月	京都大学数理解析研究所講究録 1821	I. Kuwano, T. Tanaka	263-270頁

Separation theorem in the Cartesian product of a vector space and a partially ordered vector space with a chain completeness	共著	2013年 1月	京都大学数理解析研究所 講究録 1821	T. Watanabe, I. Kuwano, T. Tanaka	214-218頁
その他					
Existence theorems for saddle points of set-valued maps via nonlinear scalarization methods・非線形解析学と凸解析学の研究集会		2010年 9月	(京都大学数理解析研究所)		
Generalized Fan's inequalities for set-valued maps via scalarization・The Second Asian Conference on Nonlinear Analysis and Optimization		2010年 9月	(Phuket, Thailand)		
Some minimax theorems for set-valued maps・The 8th International Conference on Optimization Techniques and Applications		2010年12月	(Shanghai, China)		
Minimax Theorems for Set-Valued Maps・非線形解析学と凸解析学の研究集会		2011年 8月	(京都大学数理解析研究所)		

Saddle point theorems for set-valued maps • The 7th International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis		2011年 8月	(Busan, Korea)		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
年月		内容			
2009年 4月～現在に至る		個人研究 集合のスカラー化手法の構築と最適化問題への応用に関する研究			
2011年10月～現在に至る		日本数学会 会員			
2011年10月～現在に至る		日本数学会(国内学会)会員			
2014年 5月～現在に至る		日本オペレーションズ・リサーチ学会 会員			
2014年 5月～現在に至る		日本オペレーションズ・リサーチ学会(国内学会)会員			